

# 広島女学院大学総合研究所年報

〔電子版〕

Vol. 18



広島女学院大学総合研究所

2014

# 目 次

I.	はじめに.....	所長 佐藤茂樹	(1)
II.	2013 年度公開セミナー報告.....	佐藤 茂樹	(2)
III.	2013 年度広島女学院大学学術研究助成【研究概要報告】 〔個人研究〕		
	・ 住宅維持管理情報を中心とした住環境づくりに関する研究.....	小林 文香	(4)
	・ ノハナショウブ地域個体群の遺伝子的関連性に関する分子遺伝学的 検証.....	田頭 紀和	(5)
	・ 高校教科「情報」と大学情報教育の連携の必要性について—広島地 区における調査から—.....	中田 美喜子	(7)
	・ ロレンスの作品に見られるシャーロット・ブロンテ像.....	山内 理恵	(8)
	・ グローバル人材育成に向けた授業開発・実践・評価.....	篠原 收	(10)
	・ 東日本大震災における被災地での復興住宅のあり方.....	細田 みぎわ	(12)
	・ Bochner 可積分関数の多次元上の開領域での本質的有界変動の特徴 付け.....	橋本 一夫	(14)
	・ 1789 年から 1800 年に書かれたサドの小説におけるフランス革命..	宮本 陽子	(15)
	・ レッジョ・エミリア教育の美的活動における学びの「可視化」....	三樹 正典	(16)
	・ 後期中英語から初期近代英語における名詞派生接尾辞及び派生名詞 の記述的研究.....	米倉 緯	(17)
	・ ラウシャム庭園とクレアモント庭園の景観構成.....	真木 利江	(19)
IV.	2013 年度広島女学院大学学術研究特別助成報告.....		(20)
V.	2012 年度広島女学院大学学術研究助成【研究成果報告一覧】.....		(21)
VI.	特別専任研究員の活動報告.....	山内 香澄	(26)
VII.	客員研究員の活動報告.....	Kabir Md Humayun	(29)
		河村 暁	(32)
		田中 圭子	(35)
VIII.	2013 年度広島女学院大学学術研究助成【交付一覧】.....		(37)
IX.	2013 年度科学研究費補助金【交付一覧】.....		(38)
X.	関係規程・内規.....		(39)

# I. はじめに

所長 佐藤 茂樹

本研究所は、広く人文・社会、自然の諸領域にわたる専門の学術理論及び応用に関する総合的な研究を行い、学術・文化の創造と発展に貢献するとともに、地域社会に寄与することを目的としています。

2013 年度の広島女学院大学学術研究助成の交付件数は「個人研究」11 件、「共同研究」0 件、「学術図書出版」0 件、「学会特別助成」0 件、「学術研究特別助成」3 件でした。

2013 年度科学研究費補助金の採択は 8 件で、ほかに分担金の配分が 3 件ありました。また、厚生労働省の厚生労働科学研究費補助金の分担金の配分も 2 件ありました。『広島女学院大学論集』『広島女学院大学総合研究所叢書』の刊行はありませんでした。

恒例の本学公開セミナーは、大学の学術研究成果の公開により、地域の皆様の知的好奇心にお応えし、地域社会に貢献することを目的に、毎年秋にシリーズとして行っています。第 31 回セミナーでは、改組により新しくスタートした国際教養学部国際教養学科が担当し、「伝統としての文化・文学―日米英仏を通して―」を総合テーマとして、多様な領域を担当する 4 名の教員を講師として、10 月 5 日、19 日、26 日、11 月 2 日の各土曜日に 14 時から 16 時まで、本学ソフィア 2 号館 201 教室で開催しました。本セミナーは一般市民の方々と本学学生を対象とするもので、1 回あたりの平均参加者数は約 100 名、のべ 402 名の方々が来場されました。いずれの回も、担当教員の専門とする分野の現在の研究成果をわかりやすく解説し、また、熱心な受講生との活発な質疑応答がありました。

学外との連携講座として、2013 年度に 10 周年を迎えた牛田早稲田公民館と早稲田女性会との共催による「早稲田アカデミー」からの要請を受け、講師を派遣しました。テーマはさまざまな分野にわたり、5 月から 11 月までの間、計 6 回開催し、参加者総数は 98 名でした。財団法人未来都市創造財団ひと・まちネットワーク部によるシティカレッジでは、人間生活学部、幼児教育心理学科の 5 名の教員が講師を担当し、『『私』の中の『子ども』』というテーマで、7 月 4 日、11 日、18 日、25 日と 8 月 1 日の各木曜日に 18 時から 19 時 30 分まで、広島市まちづくり市民交流プラザで開催しました。参加者総数は 112 名でした。

本研究所に所属する特別専任研究員 1 名は、自身の研究課題に取り組むほか、研究支援を担当しました。客員研究員 3 名も、各人の研究課題の究明と研究成果の社会への還元に努めました。研究員の活動の詳細については、本年報「特別専任研究員の活動報告」および「客員研究員の活動報告」をご覧ください。

本研究所は、上記のような研究活動とともに地域との連携を深めつつあります。総合研究所が担う、学術研究支援の役割が増大し、また科学研究費の公的資金を取り扱う上での重要性が高まっており、2011 年度から、専任職員を配属し、従来の嘱託職員 1 名を加え、2 名体制となっています。

本研究所のあり方についてのご意見、ご希望がございましたら、お聞かせくださいますよう、よろしくお願いいたします。

## Ⅱ. 2013 年度公開セミナー報告

### 伝統としての文化・文学―日仏英米を通して―

文学部 日本語日本文学科

国際教養学部 国際教養学科 教授 佐藤茂樹

2013 年度（第 31 回）公開セミナーは国際教養学部が担当しました。国際教養学部として最初の担当であり、運営委員会においては「世界の文化」という大きな枠組みが考えられました。担当する四名がそれぞれ専門とする国の文化・文学について、国際化・グローバル化によっていかなる変容をきたすのか等について話し合い、日本・アメリカ・イギリス・フランスにおける伝統とは何かを中心にいて各人が考えることとしました。テーマの概要は以下の通りです。

本学は 2012 年に新しく「国際教養学部」「国際教養学科」を設置しました。1 人 1 人の学生がグローバルな感覚をもつ女性になることを目指しています。グローバル化が進む中、自国だけでなく、各国の伝統や文化について理解を深め、尊重する態度を身につけることが求められています。国にはそれぞれの文化があり、それを大切に育んできました。グローバル化は地球が 1 つになることを目的としますが、これによって各国固有の文化・伝統が失われないことを願います。そのためにも、異文化を理解することが必要です。

今回は、伝統としての文化・文学が、日本・アメリカ・イギリス・フランスでは今、どのように根付き、変貌しているかをテーマとしました。日本の昔話における人生観、アメリカにどのような伝統が見出されるのか、イギリス文学から見える召使文化、フランス革命後の芸術を取り巻く社会の変容を中心にし、それぞれの国の伝統というべき、こころ・言葉・考え方・社会のしくみ等を考えます。

出席者数は第 1 回が 119 名、第 2 回が 99 名、第 3 回が 92 名、第 4 回が 92 名で参加者数は 160 名、4 回参加の修了証書授与者数は 160 名でした。アンケートの回答率は約 80% でした。アンケート内容は概ね好評だったと言えます。

各回の担当者・日時・演題・講義概要は以下の通りです。

#### 第 1 回 10 月 5 日（土）

『宇治拾遺物語』の昔話 ―「鬼に瘤取らるる事」と「雀報恩の事」―

国際教養学科教授 佐藤茂樹

『宇治拾遺物語』の「鬼に瘤取らるる事」は、昔話が初めて文字化された作品です。その意味でも画期的ですが、昔話がもつ「隣の爺型」の話型を有しながら、善良なお爺さん、意地悪なお爺さんとは設定されていないことも重要です。この二人のお爺さん

に善悪の対比がなされていないことにより、話末の「ものうらやみはすまじきことなりとぞ」の教訓は生きてきます。同じ教訓をもつ「雀報恩の事」と併せて、当時の人々の人生観・幸福観を考えます。

## 第2回 10月19日（土）

守られる伝統／挑まれる伝統 ―アメリカ文化・文学を中心に―

国際教養学科教授 前川裕治

そもそも「伝統」とは何なのか？陳腐な言い方ですが、辞書によると、「古くからのしきたり・様式…」とあります。すると、400年足らずのアメリカには「伝統」と呼べるものはないということなのか？何故なら、アメリカは新しい国という言い方をすることがあるからです。しかし、アメリカにも「伝統」はあるという認識は共有できます。それは何なのか？また、短い歴史の中で、「伝統」がどのように育まれたのか？などを考えながら、タイトルの核心に迫ります。

## 第3回 10月26日（土）

英国の召使 ―文学から読み解く―

国際教養学科准教授 山内理恵

上流階級による召使の雇用は、英国では中世からすでに存在していました。しかし、18世紀の産業革命と中産階級の富裕化によって、召使の雇用は徐々に大衆化されていきました。中産階級が上流階級の生活を真似ようと、自分たちに可能な範囲で召使を雇い始めたのです。その後、二つの世界大戦を機に、召使文化は急速に衰えていきます。この講義では、近代英国における召使文化を説明し、近現代の英国文学に見られる召使の描かれ方を見ていきます。

## 第4回 11月2日（土）

近代フランス社会における芸術とスキャンダル ―エドゥアール・マネの場合―

国際教養学科教授 宮本陽子

フランス革命以後、芸術家が大衆に向けて作品を制作するようになってから、作品の主題が大きく変わりました。なかでも「官展」の落選作品を集めた「落選展」に出品した「草上の昼食」が起こしたスキャンダルによって有名になったマネは、彼以降の芸術家と芸術作品の在り方を変えるような影響をフランス絵画にもたらしました。この講義ではマネの絵画を中心に、19世紀フランスの芸術と社会について考えます。

# Ⅲ. 2013 年度広島女学院大学学術研究助成

## 【研究概要報告書】

〔個人研究〕

住宅維持管理情報を活用した住環境づくりに関する研究

生活科学部 生活デザイン・情報学科

人間生活学部 生活デザイン・建築学科 准教授 小林文香

### 1. 研究の目的と意義

近年、高度経済成長期に整備されたニュータウンや郊外戸建住宅団地において住民の急速な高齢化や人口減少が生じ、住宅・住宅地が適切に維持管理されず劣化・衰退していくことが問題とされ、対応策の検討や、問題解決の取り組みが行われている。しかし、今後は日本全体が本格的な人口減少社会を迎えるため、これらの問題は一部の計画された住宅地だけでなく、既存住宅地すべてに該当する問題となる。このような中で地域居住の持続を考えるのであれば、住宅・宅地を地域資源とみなし、地域主体による積極的なストックの活用や循環が求められる。以上をふまえ、本研究では住まいの維持管理に関する情報を地域居住の持続に活かすことを目的とし、住まい手の住宅維持管理状況の把握、住宅維持管理に関する情報の分析を行う。また、調査分析結果をもとに、住宅維持管理情報を活用した住環境づくりに関する住情報のあり方について検討を行う。本研究の成果は、地域居住持続を目的とした地域主体による住情報整備のための基礎資料となると考える。

### 2. 研究方法

本研究では、地域の住宅維持管理情報を活用した住情報のあり方について検討を行うために以下の調査・分析を行う。

- 1) 地域における住宅維持管理に関する調査
- 2) 住宅維持管理に関する住情報の分析
- 3) 地域主体による住宅維持管理の先進事例調査

### 3. 研究経過

2014 年度は、前年度に引き続き、広島市 A 地区で地域活動に取り組む住民を対象に、地域活動の現状（体制、取り組み内容など）、地域環境の管理状況、地域居住の現状（居住者の住生活の現状および住み替え・住み継ぎ意向など）についてヒアリング調査を行った。また、A 地区住民を対象に地域生活の現状および住み替え・住み継ぎ意向、地域に必要な住情報についてアンケート調査を行った。また、地域活動および住宅地管理の先進事例として、広島市内 3 地区の地域活動団体を対象にヒアリング調査を実施した。今後、これらの調査結果をもとに、地域居住の持続性を実現するために必要な情報提供のあり方、情報提供者の可能性を検討する。

〔個人研究〕

## ノハナショウブ地域個体群の遺伝的関連性に関する分子遺伝学的検証

生活科学部 生活デザイン・情報学科

国際教養学部 国際教養学科 准教授 田頭紀和

### 1. 研究目的

日本に自生するアヤメ属植物であるノハナショウブは、園芸品種である花菖蒲の原種として、日本人の園芸文化にとって重要な位置づけを持つ植物である。日本人にとって身近な植物であったノハナショウブは、人間による自然環境の破壊の影響をうけ、地域ごとにその数を減らしており、地域によっては天然記念物や絶滅の危機に瀕する植物に指定されている希少な植物となっている。本研究では、このノハナショウブにおいて、地域個体群の保全や保全対象の特性評価を厳密に行うために、DNA 多型の検出方法である RAPD 法および ISSR 法、染色体分析を行い、個体群間の遺伝的な相違の検出及びノハナショウブに内在する地域特異性の評価を行った。

### 2. 研究概要

本年度は、前年度に行った中国地方 2 県、九州地方 1 県に加え、山口県と島根県の中国地方 2 県、宮城県、山形県、秋田県の東北地方 3 県にて、ノハナショウブの自生地調査および植物体の採集を行った。また、比較対象種として園芸品種である花菖蒲 6 品種からも葉の採集を行った。2 年間の植物調査で得られた 31 地点 73 個体の植物材料のうち、自生環境や植物の形態から、ノハナショウブと断定できる 24 地点 48 個体について、DNA サンプルの抽出を行った。園芸品種を含めた計 54 個体分の DNA サンプルにおいて、RAPD 法、ISSR 法を用いた DNA 多型分析を行った。

多型分析は、2012 年度の研究で ISSR 法では良い結果が得られなかったことから、2013 年度は RAPD 法に限定して行い、100 種類の RAPD プライマーを用いて適正プライマーの選抜を行った。広島県産と宮城県産ノハナショウブ、園芸花菖蒲を使用した適正プライマーの選抜の結果、14 種類のプライマーにおいて、多型バンドが確認された。そのうち明瞭な多型バンドを見せた 7 種類のプライマーについて、54 サンプルを用いた RAPD 実験を行った。

その結果、中国地方産の自生地間には明瞭な差は確認されなかったが、中国地方産個体群と東北地方産個体群の間に、明瞭な血縁関係の差が見出された。また、園芸品種である花菖蒲は、東北地方産品種と高い類縁性を示し、中国地方産品種とは遺伝的に明瞭に異なることが明らかになった。この結果は、園芸品種の花菖蒲の起源が、東北地方産ノハナショウブの変種とされるこれまでの外部形態を用いた仮説を、遺伝的に裏付ける結果となっ

た。さらに、中国地方産ノハナショウブが明瞭に園芸品種と異なることが明らかになったことから、本研究で用いた手法を用いることにより、近年問題になっている自然界で野生種と園芸品種が雑種を作り、自然個体群が遺伝的に汚染される現象（遺伝子汚染）を調査できることが明らかになった。

ノハナショウブ個体群の遺伝的調査は、これまでに報告されておらず、これまでの手法では、遺伝子汚染は明らかにできていなかった。特に、花菖蒲は人為的に幅広く植栽され、幅広い場所に見られる植物であり、遺伝子汚染を引き起こしやすい特徴を持っている。本研究結果は、近縁種に園芸品種を持つ野生植物の遺伝的多様性を保全するための重要な知見になったと考える。

### 3. 今年度の研究成果

#### 発表

Norikazu Tagashira, Naoko Tanaka, Saki Zenitani, and Mizuki Harada:  
Inter-population variability of *Iris ensata* Thunb. var. *spontanea* (Makino) Nakai  
in Hiroshima prefecture, Japan, 国際染色体植物学会第8回大会(広島女学院大学)、  
2013 年 11 月

〔個人研究〕

## 高校教科「情報」と大学情報教育の連携の必要性について —広島地区における調査から—

生活科学部 生活デザイン・情報学科

国際教養学部 国際教養学科 教授 中田美喜子

### 1. 研究の目的

初等教育における「アルゴリズム教育」の試みや中学校と高校の連携による「問題解決学習」など、新指導要領における学習内容の検討が行われている。高校における学習成果の現状把握と高大連携の可能性についての検討も同時に必要であると思われる。

高校における現状を分析し、大学における教育内容を再度検討することを目的とする。

### 2. 研究経過

高校で学習した「情報」教育について調査するとどの教科書を使って学習したか、どの項目を学習したかについて多くの学生があいまいな回答となっていた。そのため、本学では能力別クラスにより、学習の差を意識しない環境で初年次「情報リテラシ」教育を実施している。さらに、担当教員のアンケート結果から強化が必要と思われる内容としては表1に示したものがあげられた。特に「タイプ練習」と「各種アプリケーションスキル」「レ

表1 情報リテラシ教育の内容について 強化  
(量的、時間的)が必要だと思われる教育内容

表計算ソフトを用いた表の作成
タイプ練習
ワープロを用いた文書作成
表計算ソフトを用いたグラフの作成
プレゼンテーションソフトの操作方法
プレゼンテーション(口頭発表)
レジメ作成(2段組 表、グラフの組み込み)
コンピュータの歴史 まとめ試験
能力別クラスわけ

ジメ作成」「コンピュータ概論」が必要であり、「能力別クラスわけ」についても必要性があると回答していた。この結果から、高校における「情報」の内容については学習が不十分であることが示唆された。高校の教科書の内容からすると、すべて学習しているはずの内容がほとんどであるが、どれも十分に習得できているとは言えない状況であり、大学における「情報リテラシ」教育は

必修であることが示された。

### 3. 今後の問題点

今後、教養の「情報教育」はさらに重要になると考えられる。大学で必要な情報スキルを身に着けている学生とそうでない学生など能力差も大きく、社会で必要とされる情報スキルや能力も多種多用になっている。本研究では、必要な教育内容と強化すべき内容について示したが、これをどのように身に着けさせて卒業させるか、目標達成をどのようにさせるかについて、さらに検討していく必要があることを認識しておくことが重要である。

〔個人研究〕

## ロレンスの作品に見られるシャーロット・ブロンテ像

文学部 英米言語文化学科

国際教養学部 国際教養学科 准教授 山内理恵

### 1. 研究の目的

本研究は、D.H.ロレンス (D.H. Lawrence) がエミリ・ブロンテ (Emily Brontë : 以下「エミリ」と表記) と『嵐が丘』(*Wuthering Heights*)について強い関心を持ち、そのことが彼の創作活動に影響を及ぼしたことを証明するために、申請者が平成16年から取り組み続けているものである。前回の申請(「D.H.ロレンスから見たブロンテ姉妹—エミリを中心に—」)では、エミリとロレンスとの関係性を2本の論文(『嵐が丘』をロレンス風に読む)、「D.H.ロレンス研究: ジェシー・チェインバーズとブロンテ像」で探る一方で、エミリと、エミリの姉であるシャーロット・ブロンテ(Charlotte Brontë : 以下「シャーロット」と表記)とに対する彼の感情や捉え方を区別するために、書簡に見られるシャーロットへの言及を分析した。今回の申請では、作品中に見られるシャーロットへの言及や彼女からの影響を拾い上げることで、ロレンスが抱いていたシャーロットへの感情を考察し、エミリへの感情との差別化を図る。

### 2. 研究経過

2013年度は、昨年度に続き、ロレンスの作品に見られるシャーロットへの言及や、彼女からの影響が見られる箇所を拾う作業を行った。そして、ロレンスがシャーロットから創作上で影響を受けていたことを証明するために、「二人のバーサ」を執筆した(『石田久教授喜寿記念論文集』に掲載予定)。これは、ロレンスによる『ジョン・トマスとレディ・ジェイン』(*John Thomas and Lady Jane*)の中に見られる『ジェイン・エア』(*Jane Eyre*)からの影響を論じたもので、『ジェイン・エア』に出てくるロチェスター(Rochester)の妻バーサ・メースン(Bertha Mason)と、『ジョン・トマスとレディ・ジェイン』に出てくるパーキン(Parkin)の妻バーサ・クーツ(Bertha Coutts)の共通点を拾い上げ、ロレンスがバーサ・クーツを考え出した時に、バーサ・メースンの存在を意識していた可能性を提示した。また、2013年6月29日に関西大学に於ける日本オースティン協会第7回大会で、「D.H.ロレンスから見たオースティン」というタイトルで研究発表を行った。

### 3. 今後の予定

今回、ロレンスの作品におけるシャーロットへの言及や影響を複数見つけることができた。すべてを一つの論文で扱うのは不可能と感ずるため、今回の『ジョン・トマスとレデ

イ・ジェイン』についての論文を皮切りに、順番に論文で扱っていきたい。

#### 4. 今年度の研究成果

発表

山内理恵 「D.H.ロレンスから見たオースティン」(単独発表) 第7回日本オースティン協会全国大会 2013年6月29日 於 関西大学

その他

内田能嗣、清水伊津代、前田淑江、監訳 『エミリ・ブロンテの日記』 大阪教育図書 2013年4月 翻訳・注分担 (Pp.193-204、207-8)

〔個人研究〕

## グローバル人材育成に向けた授業開発・実践・評価

生活科学部 生活デザイン・情報学科

国際教養学部 国際教養学科 教授 篠原 収

### 1. 研究の目的と意義、方法

グローバル化に対応した人材育成が求められている時代において、ダイバーシティを受容・尊重できる人材育成に向けた授業開発が求められている。本学においても、広島という地域社会が求めるグローバル人材・グローバル人材育成に向けて、カリキュラム精査・充実とともに、グローバル感覚を体得し、ダイバーシティ・センシティブな態度を育む授業開発・実践・評価をめざすことが求められている。

グローバル社会、日本社会、地域社会における「同時代感覚」の獲得や「公正社会」、「共生社会」の実現に向けた感性と知識・技能の獲得が、グローバル人材・グローバル人材育成に求められる大切な要素であると考えている。グローバル化に順応できる人材には、語学力だけではなく、隣人である他者と心通わせることができるコミュニケーション能力が求められる。「隣人愛」の精神は、キリスト教主義教育の本学ならではのプログラムを通して体得することができよう。グローバル化していく日本社会、地域社会において、多様性の受容・尊重と平等性の確立をめざす社会、「公正社会」、「共生社会」の実現に向けた社会変革の担い手づくりこそが、広島女学院大学が広島という地域社会に存在する意義であるとする。

本研究は、グローバル感覚、ダイバーシティ・センシティブな態度を育む平和学メジャー科目のひとつである「平和学フィールドワーク」における授業開発、研修プログラム開発・実践・評価に取り組むものである。

### 2. 研究経過

本年度は、9月に研修予定先のベトナム・ホーチミン市、ハノイ市を訪問した。今回の訪問は、2014年度開講予定の「平和学フィールドワーク」におけるベトナム平和学修プログラム実施に向けた現地での「打ち合わせ」が主な目的であり、所期の目的を達成することができた。具体的な成果は以下の通りである。また、現地において関連図書などを収集することができた。

#### 1) タンロン大学生との交流(ハノイ市)

タンロン大学を9月13日に訪問し、日本語学科長 ド・ティ・フオン氏とプログラム内容について協議し、「交流に関する覚書」の原案を提示した。一日交流プログラムの内容は、次の通りである。午前中はタンロン大学において、日本語学科学生に対する本学学生によるプレゼンテーションと意見交換を実施する。昼食をとりながらの

懇談後、午後からは平和村を訪問する。平和村は、ベトナム戦争時の戦争被害者(ダイオキシン被害)のための養護施設である。施設紹介を受けた後、両大学生が施設でのボランティア活動に取り組む予定である。平和村を訪問し、プログラム協力について了解を得ることができた。

2) ベトナム在住日本人女性からのブリーフィングと懇談会(ハノイ市)

UN WOMEN ベトナム事務所長のイシカワ・ショウコ氏、ベトナム日本商工会の清水香世子氏、SMI-VN TRAVEL の芦田まこ氏に講師を引き受けていただいた。

3) 戦争証言博物館見学・戦争被害者からの証言会(ホーチミン市)

戦争証言博物館見学時に証言会を実施する。枯葉剤被害者のビン氏に証言を引き受けていただくことができた。また、ベトナム戦争戦跡訪問についても事前確認ができた。

4) 日系企業工場訪問(ハノイ市)

オギノ・ベトナム社(本社・広島県)社長の平木伸二氏に、企業紹介と工場見学を引き受けていただいた。また、平木夫人が日本人女性会の前会長であり、日本人学校訪問と保護者との懇談の仲介をお願いすることができた。

5) ベトナム女性博物館見学(ハノイ市)

ベトナム女性連合会を訪問するとともに、同連合会が運営するベトナム女性博物館見学のために、事前訪問し、展示内容などを確認することができた。

以上

### 3. 今年度の研究成果

#### 発表

篠原 収 「平和学メジャーにおける授業開発・実践・評価ー広島女学院大学・国際教養学部での事例報告ー」、第41回全国平和教育シンポジウム(広島女学院大学)、2013年9月28日

〔個人研究〕

## 東日本大震災における被災地での復興住宅のあり方

人間生活学部 生活デザイン・建築学科 教授 細田みぎわ

### 1. 研究の目的と意義

東日本大震災が起こり 3 年が経過した。被災地では復興住宅用地として高台や内陸への移転に伴う宅地造成工事のなか地域計画は進行中であるが、実質的な住宅再建遅延等により、被災者の日常生活は不安定な状況に置かれている。

そこで宮城県石巻市に着目し、住民が震災前の日常生活を取り戻すための復興住宅のあり方を探りたい。街の復興準備期間を利用して、被災者の今後の住宅再建の準備期間（計画・設計期間）に当てることの必然性を現地での住宅相談を通して被災者に呼びかける。同時に自治体主導の復興住宅の入手やハウスメーカー等の商品化された住宅の購入とは異なる選択肢を示す。建築家による家づくりは、住み手の暮らし方をコミュニケーションにより共有することができる。そこで被災者を理解し、心のケアにもつながる様な被災者側に立つ家づくりの提案に意義がある。

### 2. 研究方法

以下の方法により提案の具体策を絞り込み、被災者の状況に合った提案を行う。

- 1) 被災者のアンケート調査及びヒアリング調査。
- 2) 「記憶」を手掛かりに被災者の住宅相談。
- 3) 復興状況を随時把握するための現地視察。
- 4) 地元企業との情報交換。

### 3. 研究経過

今年度は、地元交流による被災地の現状把握により、以下の絞り込みができた。

- 1) 石巻在住の被災者 7 名（30 代～70 代、男性 3 名女性 4 名）を対象に、アンケート調査及びヒアリング調査。内容は、「震災前の家・現在の家・将来の家」。対象は、応急仮設住宅（いわゆるプレハブ仮設住宅）居住者を除く みなし仮設（既存の賃貸住宅を自治体が借り上げたもの）及び 被災した自宅 における居住者。仮設住宅では公共の復興住宅等の情報等が行き届き優遇措置等もあるが、見なし仮設住宅では否という状況を見極め、調査対象を限定した。
- 2) 釜石市の仮設住宅（甲子町仮設団地 B・C・D）の自治会協力によるアンケート調査及びヒアリング調査。宮城県／岩手県、仮設住宅／みなし仮設の比較。
- 3) 被災者の住宅相談。
- 4) 「事務所におけるパーティション」の提案。復興に携わる県外来訪者の宿泊施設の不足をふまえて、宿泊スペース確保のため事務所におけるパーティションの提案を行い、施工。
- 5) 復興の段階的な取り組みとして、既存建築のリノベーションの提案と施工を

検討。市街地には浸水し積極的に使われていないが使用可能な建築が残されている。復興に携わる県外来訪者の宿泊施設・交流施設などの不足の現状をふまえて、耐震補強を含めたリフォーム工事が求められている。

## Bochner可積分関数の多次元上の開領域での本質的有界変動の特徴づけ

生活科学部 生活デザイン・情報学科  
国際教養学部 国際教養学科 教授 橋本一夫

### 1. 研究の目的と意義、方法

本研究は日本人研究者 岡崎悦明・本田あおい・佐藤坦氏の研究「An  $L_p$ -function determines  $\ell_p$ 」(Proc. Japan Acad. Ser. A 84, 2008, pp.49–41) に触発された。彼らはこの論文で、ある数列空間の部分集合  $\Lambda_p(f)$  の線形性の特徴付けに興味を持ち、 $f$  が  $L_p$  関数のときの  $\Lambda_p(f) = \ell_p$  となるための特徴付けを与えている。 $p > 1$  の場合には、完全な特徴付けが得られるが、 $p = 1$  の場合ではその限りではなかった。有界変動関数を導入することで、我々は1以上のすべての  $p$  に対してその特徴づけを与えることに成功した。これ等の結果については「On the linearity of some sets of sequences defined by  $L_p$ -functions and  $L_1$ -functions determining  $\ell_1$ 」として日本学士紀要(Proc. Japan Acad., Vol.87, Ser.A, No.5(2011)) から出版された。本研究は次元の拡張、ベクトル値関数及び定義域への一般化で、大きく分けて次の3つのケースへの応用を試みることである:

- (1)  $f \in L_1(\mathbb{R})$  のときに得られた結果を Banach 空間に値を取る関数  $f \in L_p(\mathbb{R}, X)(p \geq 1)$  の場合に拡張.
- (2) 本質的  $p$ -変動の定義において、Banach 空間  $X$  上のノルムの代わりに、 $X$  で定義された連続凸関数を用いた拡張を試みる.
- (3) 関数  $f$  の定義領域  $\mathbb{R}$  から一般の開領域(開集合)  $\mathbb{R}^N \supseteq \Omega$  への拡張を試みる.

これらの結果の1部についてはすでに学会発表等で示されているが、本研究を通じて更なる拡張を行なう。

### 2. 研究経過

今年度では、研究目的で述べた(1)については既に雑誌 Collectanea Mathematica(Springer Verlag, Spain) から成果発表されている。また、(2)について  $L_p$  ノルムの一般化である、M. Riesz の意味での実軸  $\mathbb{R}$  上の凸関数  $\Phi$  に関する変動についても同様のアプローチが可能であることが分かり、ある程度の結果が既に得られているが、次年度以降はこの問題へと研究をシフトする予定である。

### 3. 今年度の研究成果

#### 論文

Gen Nakamura and Kazuo Hashimoto, On the essential bounded variation of  $L_p(\mathbb{R}, X)$ -functions, Collect. Math. Published online:26, Springer Verlag, November 2013 (査読有)

#### 発表

- 1) 「「On the essential bounded Riesz  $\Phi$ -variation」, 第3回「関数の定める数列空間の線形性」に関するシンポジウム(九州工業大学 天神サテライトキャンパス), 2013年1月, 橋本一夫・中村元.
- 2) 「On the linearity of some sets of sequences defined by  $L_p$ -functions and  $L_1$ -functions determining」, ポテンシャル論セミナー(名城大学 理工学部数学教室), 2013年6月, 橋本一夫・中村元
- 3) 「On the essential bounded variation of  $L_p(\mathbb{R}, X)$ -functions」, 第39回発展方程式研究会, 2013年12月, 橋本一夫・中村元.

〔個人研究〕

## 1789 年から 1800 年に書かれたサドの小説におけるフランス革命

文学部 日本語日本文学科

国際教養学部 国際教養学科 教授 宮本陽子

### 1. 研究の目的と意義

サドが作家として極めるのは 1795 年以降であるが、1792 年から 94 年までの恐怖政治の経験がサドを大きく変化させた。反宗教思想は一貫しているものの、恐怖政治期以前はむしろ啓蒙思想家の重農主義者よりの人道主義者寄りのポジションから、恐怖政治の経験によって反人道主義になるのは、ロベスピエールと彼を通してのルソーに対する批判が原因であると思われる。この時期のサドを研究することにより、革命とルソーの問題を批判的に考察する斬新な研究になるはずだ。

### 2. 研究方法

サドが革命以前に書き上げていた、ルソーの影響の強い『アリーヌとヴァルクール』、恐怖政治の刻印が強く現れる『閨房哲学』、『ジュリエット物語』を中心に、革命家たちの言説やルソーの『新エロイズ』、『社会契約論』等と比較しつつ考察をすすめる。本年度はむしろ、革命家たちの言説とルソーのテキストをサドのテキストと付き合わせることから始めた。

### 3. 研究経過

年度前期は京都大学の恐怖政治の研究会に出席し、恐怖政治期のテキストや研究書について新たな情報を収集し、後期からは慶応大学での『百科全書・啓蒙思想研究会』に加わり、『百科全書』の項目の熟読と啓蒙思想に関わる情報収集をした。そうするなかで、革命期の文学・社会研究において、その特徴を端的に表すものは「施し」であることが明確になった。今回も論文を「施し」というテーマでまとめた。研究にこのテーマを重ねることで、サドを通したルソーと革命に対する批判的な読解が可能になるであろう。

### 4. 今年度の研究成果

論文

宮本陽子「幸福の分配」、『広島女学院大学大学院言語文化論叢』、第 17 号、2014 年 3 月、69 - 90 頁

〔個人研究〕

## レッジョ・エミリア教育の美的活動における学びの「可視化」

文学部 幼児教育心理学科

人間生活学部 幼児教育心理学科 教授 三桝正典

### 1. 研究の目的

本研究は、幼児教育で世界から注目され続けているイタリアのレッジョ・エミリア市幼児教育システムの自然物と人工物の素材を活用した様々な美的活動における学びの「可視化」の分析とその効果について考察を行うものである。

またそのレッジョ・エミリア幼児教育システムの中核となる「プロジェクト」を通して、園児の美的活動から創り出される様々な発見や発想をもとに、一人一人が本来もっている「創造性」にも着目したい。

### 2. 研究方法

1年次では、レッジョ・エミリア教育システムの「可視化」された美的活動の学びの分析、ひろしま美術館での鑑賞授業実践、2年次は、1年次の収集資料や実践データの分析・まとめを行う計画で進めていく。

### 3. 研究経過

ひろしま美術館において、学びの「可視化」教材としてピカソの「女性の半身像（胸出す女）」を用いて続き絵を描く表現授業実践を行った。

◎2013年6月3日（月）11:00～11:30

聖モニカ幼稚園 年長園児 51名

◎2013年10月25日（金）11:00～11:30

ゲーンズ幼稚園 年長園児 70名

ひろしま美術館のピカソ作「女性の半身像」を見て気づいたことを「女性の半身像」の部分（共通の形）から一人ひとりが発想を広げて描いていく実践を2つの園の園児を対象に行った。授業実践の詳細は、広島女学院大学人間生活学部紀要創刊号で紹介している。来年度は、引き続きひろしま美術館での鑑賞活動の実践を継続し、美的活動における学びの「可視化」についてまとめていきたい。



実物の作品を「見る」「語る」



園児たちの作品

〔個人研究〕

後期中英語から初期近代英語における名詞派生接尾辞及び派生名詞の記述的研究

文学部 英米言語文化学科

国際教養学部 国際教養学科 教授 米倉 綽

## 1. 研究の目的と意義

後期中英語から初期近代英語における名詞を派生する接尾辞およびその派生名詞の調査・分析に基づいて、現代英語の語彙形成がどのようになされてきたかを詳細に述べることで、現代英語の語彙がいかに豊富になったかを明らかにするのが目的である。

## 2. 研究方法

歴史的にみると、英語は古英語の時代からラテン語の影響を受け、さらに中英語になると「ノルマン人の英国征服」により、古フランス語が大量に英語に流入した。その後、初期近代英語においてイタリア・ルネサンスの影響により再び古典ラテン語が導入された。この言語的事実を踏まえて、チョーサー、ラテン語からの英訳聖書、さらにシェイクスピアの作品にみられる言語をラテン語や古フランス語と比較することで、英語の語彙になぜ多くの外国語の要素が含まれるかを論述した。

## 3. 研究経過

2013年5月日本中世英語英文学会の依頼によって、Swift Edgar によるラテン語聖書ウルガタに基づく現代英語訳を調査し、ラテン語が中英語から初期近代英語にどのような影響を及ぼしたかを研究報告として提出した。さらに、2013年7月には後期中英語から初期近代英語における *grace* という語を中心とした語彙の意味構造を調査し近代英語協会全国大会で発表した。また、2014年1月には、後期中英語における派生名詞とこの派生名詞を形成する接尾辞につての論文を発表した。次いで、2014年2月にはいわゆるワード・ペアが後期中英語から初期近代英語において如何なる使われ方をしているかを膨大な資料に基づいて調査した。これらの研究を実施するにあたり、日本語の場合を知るために、「コーパス日本語学ワークショップ」(2014年3月6日、7日、国立国語研究所) および「第8回日本語実用言語学国際会議」(2014年3月22日、23日、国立国語研究所) に出席し、コーパス研究や日本語研究と英語学との関係を調査し、ワークショップ参加者と意見交換をした。

## 4. 今年度の研究成果

論文

- 1) 「通時的研究の現状と課題」、『言語変化—動機とメカニズム』、東京：開拓社、(2013.4), pp. 303-317.
- 2) “The Vulgate Bible Volume I: The Pentateuch (Dumbarton Oaks Medieval Library),” *The Japan Society for Medieval English Studies*, 28 (2013.12),

pp. 27-34.

- 3) “Chaucer’s Agent-Noun Formations in -ER and -OUR —A Morphological, Syntactic, and Semantic Description,” *Linguistics and Philology*, 33 (2014. 1), pp. 1-20.
- 4) “Meanings of the Word *Grace* in Late Middle and Early Modern English,” *Studies in Modern English: The Thirtieth Anniversary Publication of the Modern English Association*, 2014 (Now being printed), pp. 1-17.
- 5) “Paired Words in Late Middle English —The Case of *the Wycliffite Bible*,”  
『広島女学院大学 英語英米文学研究』23号、2014年3月（印刷中）.

研究発表

「*The Historical Thesaurus of the Oxford English Dictionary*は英語の語彙の史的研究に貢献するか」、近代英語協会全国大会第30回記念大会（愛知大学、名古屋駅キャンパス）、2013年7月.

〔個人研究〕

## ラウシャム庭園とクレアモント庭園の景観構成

人間生活学部 生活デザイン・建築学科 准教授 真木利江

### 1. 研究の目的

18 世紀イギリス風景庭園の代表作であるラウシャム (Rousham)、クレアモント (Claremont) の 2 庭園を対象とし、その景観構成の特徴を明らかにすることを目的とする。ともに風景庭園の創始者とされるウィリアム・ケント (William Kent) の代表作として知られるが、ケントの前任としてチャールズ・ブリッジマン (Charles Bridgeman) が担当している。両者の比較を通して景観構成の特徴を明らかにし、18 世紀前半の風景庭園における景観構成転換の歴史的位置づけに再考を試みる。

### 2. 研究方法

本研究はこれまでの研究を発展させるもので、2 庭園 (ラウシャム、クレアモント) のブリッジマンによる庭園とケントによる庭園は、すでに 3D ソフト Form Z により立体的な復元をほぼ完了している。本研究ではこの 3D モデルからとりだした景観構成の特徴を、比較を通して明らかにする。比較する景観の選定においてはすでに報告済みの空間構成の分析により得られた知見等を参照する。

### 3. 研究経過

2013 度はラウシャム庭園を対象として研究を行った。この庭園はオックスフォードの北方約 20km、北から南へ屈曲しながら流れるチャーウェル川西岸に位置する。ケントがとくに重視した 2 つの眺めをとりあげ、ブリッジマンによる眺めを具体的にどう変更したのか復元した当時の眺めを比較した。比較に当たっては、美術史分野における知見、とくにヴェルフリンによるバロック美術の表現に関する論考を参照し、奥行き表現の変化に着目して分析を行った。奥行き表現の変化は中心軸の強調と延長、地形の変化の強調、近景・中景・遠景での左右の広がりの変化、見え隠れする要素の配置、斜めからの眺めと進行に伴う眺めの変化の 5 点にまとめられ、ヴェルフリンが＜平面と深奥＞という対概念を用いて指摘するバロックへの展開が、ケントが創出した眺めにみられる奥行き表現の特徴と強い照応を示すことを明らかにすることができた。また、これにより風景庭園創成期の新しい眺めの創出をルネサンスからバロックに至る展開の中に位置づける可能性を指摘することが出来た。

2014 年度は引き続き、クレアモント庭園を対象とした研究を行う。

### 4. 今年度の研究成果

論文

真木利江「ラウシャム庭園における奥行き表現の変化」、『日本建築学会中国支部研究報告集』第 37 巻、pp. 873-876、2014 年 3 月

## IV. 2013 年度広島女学院大学学術研究特別助成報告

1. 大場美和子 文学部 日本語日本文学科／国際教養学部 国際教養学科 准教授

決算額 100,000円

研究課題名 接触場面における三者会話の分析―話題開始と応答の発話に着目して―

成果発表学会雑誌名等 『日本語学』, Vol.32-1, 明治書院, 2013年1月号

2. 瀬山 一正 生活科学部 管理栄養学科／人間生活学部 管理栄養学科 特任教授

決算額 200,000円

研究課題名 (1) Effect of urine pH changed by dietary intervention on uric acid  
clearance mechanism of pH-dependent excretion of

成果発表学会雑誌名等 Nutrition Journal 11: 39(2012)

研究課題名 (2) 高尿酸血症・痛風の食を通じた予防薬の試案

成果発表学会雑誌名等 Gout and Nucleic Acid Metabolism. 36-95-103(2012)

## V. 2012 年度広島女学院大学学術研究助成

### 【研究成果報告】

〔個人研究〕

- ・ 宮本 陽子 テーマ アンチモダンとしてのサド

成果 1) 学会誌等

宮本 陽子 「革命のエクリチュール」、米倉綽編著『ことばが語るもの 文学と言語学の試み』、英宝社、2012 年 3 月、pp. 35-86

宮本 陽子 「革命は文学を取り込むことができるか」、『広島女学院大学大学院言語文化論叢』第 16 号、2013 年 3 月、pp. 31-45

2) 口頭発表

宮本 陽子 「ルソー・革命・サド」、日本フランス語フランス文学会秋季大会 九州大学教授阿尾安泰司会「ワークショップ・ルソーからの読解 —18 世紀の語るもの」、2012 年 10 月 21 日、神戸大学

- ・ 橋本 一夫 テーマ Bochner 可積分関数の多次元上の開領域での本質的有界変動の特徴付けに関する研究

成果 1) 学会誌等 (以下、二重下線: 研究代表者)

橋本 一夫 「On the Nonlinear Examples of Sequence Spaces Induced by  $L_p$ -functionals」, 『広島女学院大学生活科学部紀要』第 19 号, 2012 年 3 月, pp.73-84

Gen Nakamura and Kazuo Hashimoto, 「On the essential bounded variation of  $L_p(\square, X)$ -functions」, 『Collect. Math.』, Published online:26, November 2013

2) 口頭発表

橋本 一夫 「Some examples of  $\Lambda_p(f) = \ell_q$  for  $1 \leq q < p < \infty$  and  $f \in L_p(R)$ 」, 第2回「 $L_p$ -関数の定める数列空間の線形性と位相」に関するシンポジウム, 2012年3月

橋本 一夫 「On the essential bounded Riesz  $\Phi$ -variation」, 第3回「関数の定める数列空間の線形性」に関するシンポジウム(九州工業大学 天神サテライトキャンパス), 2013年1月

橋本 一夫 「On the linearity of some sets of sequences defined by  $L_p$ -functions and  $L_1$ -functions determining  $\ell_1$ 」, ポテンシャル論セミナー(名城大学 理工学部数学教室), 2013年6月

橋本 一夫 「On the essential bounded variation of  $L_p(\square, X)$ -functions」, 第39回発展方程式研究会, 2013年12月

- ・ 三桝 正典 テーマ 幼児期に行う「ヌード(裸体像)デッサン」が引き出す効果について

成果 1) 学会誌等

三桝 正典 「幼児期に行う(裸体像)デッサン」が引き出す効果についてーレッジョ・エミリアアプローチのテーマを通してー, 『広島女学院大学論集』第61集(電子版第1号), 2011年12月

三桝 正典 「幼児期に行う(裸体像)デッサン」が引き出す効果について, 『ひろしま美術館機関誌メープルニュース』第74集, 2012年 夏号 p.5

2) その他(講演等)

三桝 正典 2012年度、広島県中学校教育研究会, 2012年10月

10 日、「総合的な学習の時間」シンポジウム（シンポジスト）

三桝 正典 佐伯区保育士研修会、2013 年 10 月 25 日、「造形活動を通した子どもの育ち」（講演講師）

三桝 正典 広島市立三筋保育園育児講演会、2014 年 2 月 14 日、「感性を豊かに育てるには」（講演講師）

- ・ 末永 航 テーマ 広島を中心とする戦後日本の公共空間美術における計画・制作・受容過程の比較研究

成果 1) 学会誌等

末永 航 「戦災モニュメントの造形（1）1945－1950 年 —沖縄・広島・長崎における同時期の制作活動」、『広島女学院大学国際教養学部紀要』、創刊号、pp.29-40、広島女学院大学国際教養学部

2) その他（講演等）

末永 航 「建築と町 —倉敷から見る歴史と現在」、倉敷市立美術館美術教養講座、2012 年 4 月 7 日、5 月 12 日、6 月 2 日、7 月 7 日、倉敷市立美術館

末永 航 「都市の記憶を繋げるために」、『広島芸術学会会報』、126 号（2014 年 2 月）、p.1、広島芸術学会

- ・ 小野 育雄 テーマ 建築家の思索にみる現象としての空間へのアプローチと生活世界のつきつめ方

成果 1) 学会誌等

小野 育雄 「建築家のサイト」、『感性のフィールド』、2012 年 9 月、pp. 137-153、東信堂

2) 口頭発表

小野 育雄 「増田友也に於ける存在することと建築することと

の思索」、日本建築学会 2011 年度大会、2011 年 8 月 24 日、早稲田大学、(『日本建築学会 2011 年度大会 学術講演梗概集』DVD、2011 年 7 月、pp. 787-788、日本建築学会)

- ・ 妻木 陽子 テーマ 食事中の必須アミノ酸のバランスを軸とするアレルギー予防の新規栄養管理の構築

成果 1) 学会誌等 (以下、二重下線: 研究代表者、一重下線: 研究分担者)

妻木 陽子、鉄穴森陽子、朝日綾子、坂井堅太郎 「小児食物アレルギーデイキャンプ開催への取組み (第 2 報) ～コンタミネーション対応に関する検討～」、『広島女学院大学 生活科学部紀要』、第 20 号、2013 年 3 月、pp. 73-83

2) 口頭発表

妻木 陽子、松村 愛子、坂井堅太郎 「肥満細胞培養株 RBL-2H3 細胞のアレルギー関連遺伝子発現に及ぼすヒスチジンの影響」、第 66 回日本栄養・食糧学会大会、2012 年 5 月 18-20 日、東北大学

妻木 陽子、坂井堅太郎 「ヒスチジンおよび L-カルノシンの RBL-2H3 細胞における脱顆粒に及ぼす影響」、第 67 回日本栄養・食糧学会大会、2013 年 5 月 24-26 日、名古屋大学

妻木 陽子、鉄穴森陽子、朝日 綾子、坂井堅太郎 「小児食物アレルギーデイキャンプでの保護者への支援について」、日本栄養改善学会、第 9 回中国支部、学術総会、2013 年 6 月 29-30 日、川崎医療福祉大学

妻木 陽子、鉄穴森陽子、朝日 綾子、坂井堅太郎 「小児食物アレルギーデイキャンプ参加後の行動変容に関する検討」、第 46 回日本栄養・食糧学会中国・四国支部大会、2013 年 11 月 16-17 日、山口県立大学

- ・ 松浦 正博 テーマ 大学組織運営における FD・SD の実践的課題に関する学際的研究

成果 1) 学会誌等 (以下、二重下線：研究代表者、一重下線：研究分担者)

木本 浩一 「不満足な「よき」連携—広島女学院大学の事例—」、  
『社会教育職員研究』第 19 号、2012 年、pp. 24-28

2) 口頭発表

松浦 正博、石井 三恵、中田美喜子 「科目連携型初年次教育の  
試み (2)」、大学教育学会第 33 回大会、2011 年 6 月  
5 日、桜美林大学 (「大学教育学会第 33 回大会 発表  
要旨集録」、pp. 176-177)

木本 浩一 「不満足な「よき」連携—広島女学院大学の事例—」、  
社養協第一回定例研究会、2011 年 10 月 22 日、明治  
大学

松浦 正博、中田美喜子 「科目連携型初年次教育のこころみ～ま  
とめにかえて～」、大学教育学会第 35 回大会、2013  
年 6 月 2 日、東北大学川内キャンパス (「大学教育学  
会第 35 回大会 発表要旨収録」、pp. 130-131)

3) その他 (講演等)

木本 浩一 「単位制度の実質化と教育・履修システムの進化」、  
地域科学研究会高等教育情報センター主催、剛堂会館  
2012 年 3 月 21 日 (セミナー講師)

木本 浩一 「大学教育改革地域フォーラム 2012 in 広島」、広島  
私立大学協会・文部科学省共催、エリザベト音楽大学  
2012 年 7 月 14 日 (パネリスト)

## VI. 特別専任研究員の活動報告

山内 香澄

### 1. 広島女学院大学公開セミナーについて

総合研究所では、毎年秋に一般市民を対象とした公開セミナーを主催し、昨年で 31 回目を迎えた。2013 年度は、「伝統としての文化・文学―日仏英米を通して―」をテーマとし、国際教養学部・国際教養学科が担当した。事前申し込み者数は、前回より 30 名ほど多い 197 名。全 4 回出席し、修了証書を授与された受講者は、前年度比 1.5 倍の 47 名であった。本セミナーは、社会貢献活動の一つとして、学術研究成果の公開により地域の皆さまの知的好奇心におこたえすることを目的としている。そこで、本報告では、これからの公開セミナーのあり方について本学公開セミナーへのニーズの視点から考察したい。

近年、足を運ぶことなく学べるオンデマンド講座が、国内外の大学から配信されている。オンデマンド講座は、決まった時間に決まった場所に足を運ばなくて良いという空間的・時間的制約がないというメリットがある一方で、デメリットも存在する。特に本学の場合、次頁の年代別参加者数のグラフを見ていただくとわかるように、受講者の約半数が 60 代以上であり、パソコン操作の問題が懸念される。加えて、オンデマンド講座の場合、聞きっぱなし、話しっぱなし、になる可能性がある<sup>1</sup>。それに対し、対面講座は、講師は受講生の反応を見ながら進行することができ、受講生は状況によって講師に直接質問をぶつけることができるなどのメリットが挙げられる。また、時間的制約を受けて足を運ぶという手間の代わりに、講師とだけでなく同じ講座に参加する受講生との交流も想定される。

次に講座担当者について言及したい。本学の公開セミナーは全 4 回で、担当者は毎回変わる。そのため、質問は、ほとんどの場合セミナー終了後の質疑応答の時間、もしくはアンケートに記載するという方法がとられる。ただし、アンケートへ記入した場合は、講師が文章による回答したとしても次の講座に質問者が欠席すると回答内容が質問者に伝わりとは限らない。また、自宅で復習をして疑問点が見つかったとしても、質問をしにくい状況にある。しかし、同じ担当者が続けて講義を担当すると仮定すると、質問がしやすくなるだけでなく、一つの内容を深く掘り下げて勉強することができるというメリットが想定される。公開講座は、文部科学省委託調査報告書でも言及されているように「教員が、社会一般の方に、アカデミックなことを教える機会をもつことで、学生に教えるのとは異なる視点をもて、刺激を受けることが出来る。その結果が、教員の研究にもフィードバックされ、研究にも刺激を還元できる。」(p.13)と教員側にもメリットがあるが、これは連続して講座を担当することによって生まれる受講生との対話によってさらに効果が上がると思われる。

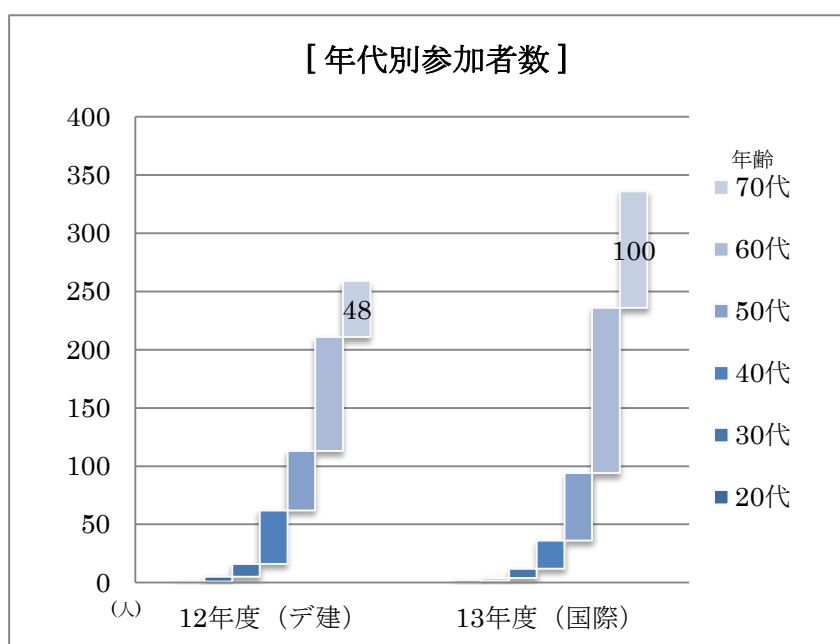
---

<sup>1</sup>学生と教員との双方のサポート体制の関係から受講者数の制限を行う場合もある。

以上のことから、本学での公開講座は対面講座で、対話のしやすい小規模の講座を同じ講師が連続して担当するのが好ましいのではないかと結論付ける。

#### 【アンケート概要】

公開講座では、より良い公開セミナーを開催するために各回の受講者を対象としてアンケートを行っている。年齢や性別、職業、講義の内容に関する選択回答の他に会場に関する意見を書いていただくための自由記入欄を設けている。2013 年度のアンケート回収率は、79・87%である。



※第1回から第4回の延べ人数による。

#### 【参考文献】

文部科学省、「公開講座の実施が大学経営に及ぼす効果に関する調査研究：調査報告書」  
平成 23 年 3 月。

## 2. 2013 年度の研究概要ならびに研究成果一覧

### (1) 研究概要

今年度は、ジャンルを定義するための新たな作品としてシャーロット・ブロンテ(Brontë, Charlotte, 1816-1855)の『ジェイン・エア』(*Jane Eyre*)を取り上げ、作品に含まれるセンセーション・ノヴェルの要素の確認と時代背景を検証した。

シャーロット・ブロンテの『ジェイン・エア』は、女性の自立、家庭の秘密、重婚未遂、放火、狂気などセンセーション・ノヴェルの要素をいくつも含んでおり、ジャンルを分類する際にしばしば用いられる「女性作家によって書かれた作品」という要素をも含んで

いる。このように『ジェイン・エア』は、センセーション・ノヴェルの要素を多用に含みながらもそのジャンルの先駆的作品として取り上げられることはあまりない。その理由について Pykett は、出版時期の問題を指摘している。

そこで、歴史的流れも視野に入れながら、主人公ジェインの外見や内面的描写を中心として、『ジェイン・エア』の影響を受けたといわれているメアリー・エリザベス・ブラッドン(Mary Elizabeth Braddon, 1835-1915)の『レディ・オードリーの秘密』(*Lady Audley's Secret*, 1862)や他のセンセーション・ノヴェルとの比較を交えつつ、ジェインはヴィクトリア朝社会でどのように読まれていたのか、そしてなぜ『ジェイン・エア』はセンセーション・ノヴェルとして扱われないのかについて考察した。

『ジェイン・エア』に関する研究成果の一部は、7 月に日本ブロンテ協会関西支部で発表した。今後は、この成果も含め論文としてまとめていく予定である。

## (2) 2013 年度の研究成果一覧

### ○口頭発表(学会)

「『ジェイン・エア』とセンセーション・ノヴェル」、単独 日本ブロンテ協会  
関西支部 2013 年夏季大会(於:関西大学)、2013 年 7 月 20 日

### ○その他

- ・ 「センセーション・ノヴェルとヴィクトリア朝の人々；第 1 回」 単独  
ひろしまカレッジ連携講座（教育ネットワーク中国；広島女学院大学人文館）、  
平成 25 年 6 月 7 日
- ・ 「センセーション・ノヴェルとヴィクトリア朝の人々；第 2 回」 単独  
ひろしまカレッジ連携講座（教育ネットワーク中国；広島女学院大学人文館）、  
平成 25 年 6 月 14 日

## VII. 客員研究員の活動報告

Kabir Md Humayun

### 1. 研究テーマ

南アジアにおける宗教教育の達成度に関する公式・非公式教育システムをめぐる比較研究

### 2. 活動概要

This research attempted to illustrate the diversities and changes of Islamic religious schools (known as madrasas) in South Asia, particularly in Bangladesh, India, and Pakistan. With cross-national comparison between the reformed and unreformed Islamic religious schools in each country, the primary purpose of the research was to explore whether religious education can be an aid in meeting the educational challenges in South Asia.

A large number of world Muslim populations live in South Asia, of whom many do not have enough access to education, and many of those who have access to education often prefer religious schools to state or modern schools primarily for resuscitating their religious culture and identity. There are large numbers of Islam-based educational institutions (madrasas) in this region, which do not receive enough academic attention in educational research. Some of these institutions have been transformed with several state-initiated reform programs in the South Asian countries, though a large number remain outside the state education and resist reform or any kind of state's intervention with their self operational autonomy in community level. In this study, I intended to examine both sectors of Islamic religious schools' role in social change and educational attainment.

I planned to examine why some madrasas receive reform and why some did not? Can these types of religion-based educational institutions be brought under educational development paradigm or framework that can mobilize local community at grass-root levels? What are the tensions between the mainstream modern educational sectors and these institutions? Considering the socio-economic, cultural and political context of each country, I aimed to decipher the complexity, dynamicity, changes, and continuity in Islamic religious educational sectors in various South Asian Muslim communities.

Religion is not much given priority in development discourses and paradigm; it is considered as if it influences individual life only, not the public good. Religious education has been less focused, and this study would like to develop religious education as a distinct field of study by which educational development research can be benefitted.

This research is planned for three fiscal years. Within this period several fieldwork trips to Bangladesh, India and Pakistan had originally been planned. Several fieldworks have been conducted in Bangladesh and India; however, fieldwork in Pakistan could not be done due to the sensibility of the issue and security situations in the country.

During the FY, I presented the research findings in referred international conference and academic society's annual conference in Japan. Moreover, I conducted two fieldworks in South Asia. In Oct., 2013, I have presented a preliminary research findings on India titled "Muslims' Education in India: Patterned Religious-Cultural Norms and Social Disparity in a Community in Hapur District, Uttar Pradesh" in *the 26th Annual Meeting of the Japanese Association for South Asian Studies-JASAS*, held at Hiroshima University. During Nov-Dec, 2013, I visited India for attending an international conference and conducting fieldwork. During the visit, I presented a research paper in *the 3<sup>rd</sup> International Congress of Bengal Studies* at the University of Calcutta. After that, I have conducted fieldwork in a small village in Hapur district of Uttar Pradesh, India.

During the fieldwork in Bangladesh conducted in Dec 2013-Jan 2014, I have visited several educational institutions and offices including Bangladesh Madrasa Education Board. Also, I took interviews of some madrasa custodians in Dhaka. The findings of the research would contribute to future publication and research output. In the last months of the FY 2013, I have concentrated on preparing a research article on Muslim minority education in India for publication consideration in the *Journal of Japanese Association for South Asian Studies*.

In the early months of the FY, I approached to conduct a fieldwork in Pakistan and applied for visa. Regrettably, my visa application has not been answered yet. Despite not being able to conduct fieldwork on madrasas in Pakistan, I wrote a review paper on Pakistan madrasas and contributed to a book on *Rights to Education in South Asia* which is forthcoming under Kyoto University Press.

In continuation of my research, I have jointly convened a panel on Bengal Studies in the joint international conference of the International Union of Anthropological and Ethnological Sciences-IUAES and the Japanese Society of Cultural Anthropology-JASCA, to be held in Chiba city in May 2014. In addition to my role as co-convenor of the panel, I shall present a research paper on “Custodians of Muslim Identity: Islam, State, and the Ulama in Bangladesh”. This paper is the output of my research involvement in madrasas in Bangladesh under the auspices of the Grant-in-Aid for Scientific Research (KAKEN, Wakate-B).

### 3. 研究業績一覧

#### International Conference and Academic Society Presentation (FY 2013)

1. Humayun Kabir. 2013a. “Muslims’ Education in India: Patterned Religious-Cultural Norms and Social Disparity in a Community in Hapur District, Uttar Pradesh.” *The 26<sup>th</sup> Annual Meeting of the Japanese Association for South Asian Studies*, Hiroshima University, Oct. 5-6. [referred]
2. Humayun Kabir. 2013b. “From Piety to Politics: What Causes the Political Rise of Madrasa Custodians in Contemporary Bangladesh.” *The 3<sup>rd</sup> International Congress of Bengal Studies*, University of Calcutta, Kolkata, India, Nov 19. [referred]

#### Publication List (FY 2013)

1. Humayun Kabir. 2014a. “Frontiers of Political Islam in Bangladesh: The Jamaat, Deobandis and the Mystics” In *Islam and Democracy: Prospects and Pathways*, eds, Ingrid Mattson, Paul Nesbitt-Larking and Nawaz Tahir, Newcastle: Cambridge Scholars (referred; accepted, forthcoming).
2. Humayun Kabir. 2014b. “Madrasa Education in Pakistan: The Reform Question” (In Japanese, transl. Tatsuya Kusakabe). In *Right to Education in South Asia*, ed., Fumiko Oshikawa, Kyoto: Kyoto University Press (forthcoming).
3. Humayun Kabir. 2014c. *Education, Nationalism, and Conflict in Plural Society in Nepal: Terai Region in the Post Maoist Context* [in Japanese], translated by Kayo Waguri, in *Right to Education in South Asia*, ed., Fumiko Oshikawa, Kyoto: Kyoto University Press (forthcoming).

## 1. 研究テーマ

発達障害児者の実行機能とワーキングメモリに関する研究

## 2. 研究概要と目的

近年、発達障害のある児童生徒への支援体制作りが進み、さらに発達障害のある高校生、大学生への支援のあり方も検討されるようになってきた。発達障害児者ではしばしばワーキングメモリや実行機能における困難を示すことが指摘されてきている。ワーキングメモリとは情報を一時的に記憶・処理する能力(湯澤・河村・湯澤, 2013)のことを指し、例えば授業を聞いて理解すること、メモすること、要約することなどにはワーキングメモリの適切な働きが必要であると考えられる。学習領域におけるワーキングメモリの概念は理論的構築、学習との関連の検討の 2 つのステップを経て、現在は理論と実践をつなぐ 3 つめのステップに進んできている(湯澤・河村・湯澤, 2013)。実践に関してはまだ端緒についたばかりであり、今後の着実な実践の蓄積が必要である。そこで本研究では、ワーキングメモリに関連するような困難を示す子どもと成人の、目標の記憶、計画・実行を促進するための支援方法を検討することを目的とする。

## 3. 研究の方法

主に次の 3 つの方法に基づいて活動と研究を行った。

- ①子どもへの指導実践を通じたワーキングメモリに基づく支援技術の開発
- ②アセスメントの 1 つとしてアンケートの開発
- ③ワーキングメモリモデルの実践適用を目的としたアンケート実施

## 4. 活動報告ならびに研究成果

2013 年度の活動報告および研究成果を以下に述べる。

### (1) 学習支援等

発達障がい児(9 名)や保護者(9 名)を対象として、下表の通り学習支援(おおむね週 1 回)や相談を行った。実行機能やワーキングメモリに焦点を当てた支援を行い、支援技術の改善や開発を行った。これらの成果の一部は湯澤・河村・湯澤(2013)、河村(印刷中)に発表した。

	春期	秋期	合計
回数	52	147	199

## (2) 小学校・高等学校支援

広島市内，広島市近郊の小学校・高等学校(3校)において，下表の通り参観，支援を行った．実行機能やワーキングメモリに焦点を当てた支援を検討した．

	春期	秋期	合計
回数	21	22	43

## (3) 学修に関するアンケートの作成

大学生 1539 名を対象としたワーキングメモリや実行機能に関する項目(e.g., Smith - Spark, Fawcett, Nicolson, & Fisk, 2004)を含めたアンケートを作成した．因子分析の結果，コミュニケーション，読書，授業，自習学習の 4 因子が抽出された．これらの因子に基づいて大学生の学修を支援する方法について検討した．

## (4) ワーキングメモリの実践適用についてのアンケート

ワーキングメモリモデルを実践現場で活用するための基礎情報を得る目的で，小学校の教師 40 名を対象としてアンケートを実施した．アンケートはワーキングメモリの実践適用についての講演会の直後に実施した．講演会では Baddeley (2000)のワーキングメモリモデルを，短期と長期，言語と視空間，情報の保持と処理の 3 つの観点から解説し，実践現場における現象と結びつけて解説していった．アンケートは，講演会を受講するまでの知識として，記憶に短期と長期の区別，言語と視空間の区別，情報の保持と処理の区別を知っていたかどうかを尋ねた．またそれらが授業や支援に役立ちやすいかどうかを全然役立たないから非常によく役立つまでの 7 件法で尋ねた．

その結果，短期と長期の記憶の区別を事前に知っていたのは 72.5%(29 名)であった．言語と視空間の区別を知っていたのは 52.5%(21 名)，情報の処理と保持の区別を知っていたのは 35%(14 名)であった．このように短期記憶概念として知られてきた区別はよく知られていたが，ワーキングメモリにおいて特に焦点が当たった点については 7 割近くが知らないという結果だった．また授業や支援への役立ちやすさについては，やや役立つよりも下に評定されることはなかった．非常によく役立つとよく役立つに評定された割合は，短期と長期の区別について 75%(30 名)，言語と視空間の区別について 87.5%(35 名)，情報の処理と保持の区別については 90%(36 名)となった．7 割近くが知らなかった情報の処理と保持の区別についての概念が，授業や支援に最も役立つと感じられており，今後のさらなる情報周知の活動が必要であると思われた．

#### (5) 研修会講師

広島県内の小中学校，高等学校，短期大学の教員を対象とした研修会において，実行機能やワーキングメモリに関連する支援の講演を行い，困難の所在の理解を促進するとともに，理解を促進する方法の検討を行った。

- ・ 河村 暁「子どもの記憶の特性に配慮した学習支援」LD を学ぶ教師の会学習会講演. 2013 年 8 月，ひろしま市民交流プラザ.
- ・ 河村 暁「教室での学習とワーキングメモリ」中島小学校校内研修会. 2013 年 8 月，中島小学校.
- ・ 河村 暁「教室での学習とワーキングメモリ」袋町小学校校内研修会. 2013 年 8 月，袋町小学校.
- ・ 河村 暁「子どもの記憶の特性に配慮した学習支援」広島市工業高校定時制校内研修会. 2013 年 8 月，広島市工業高校.
- ・ 河村 暁「自閉症スペクトラムを抱える学生への支援の方法」鈴峯女子短期大学校内研修会. 2013 年 8 月，鈴峯女子短期大学.

#### 5. 研究成果の公表

研究成果の一部は以下の通り公表した。

- ・ 河村 暁(2013) 語彙学習の長期的な効果と読み速度に及ぼす効果. 日本ワーキングメモリ学会第 11 回大会抄録, p.13.
- ・ 河村 暁(印刷中)子どもの認知的特性を踏まえた支援技術, 湯澤美紀・湯澤正通(編)ワーキングメモリと教育. 北大路書房.
- ・ 湯澤美紀・河村 暁・湯澤正通(2013)ワーキングメモリと特別な支援 ―一人ひとりの学習のニーズに応える―. 北大路書房.

#### 【引用文献】

- ・ Baddeley, A.D. (2000). The episodic buffer: a new component of working memory? Trends in Cognitive Sciences, 4, 417– 423.
- ・ Smith - Spark. J. , Fawcett, A., Nicolson, R. & Fisk, J. (2004). Dyslexic students have more everyday cognitive lapses. Memory, 12(2), 174-182.
- ・ 湯澤美紀・河村 暁・湯澤正通(2013)ワーキングメモリと特別な支援 ―一人ひとりの学習のニーズに応える―. 北大路書房.

## 1. 研究テーマ

『槐記』再考

## 2. 活動概要

稿者は、奈良時代以前に大陸から渡来した芳香剤の一種「薫物（たきもの）」の処方や調合法を主題とする「薫物書（たきもののしよ）」を研究している。

平成 25 年度には、前年度より実施していた日本の近世初期から中期における薫物文化の実相と変遷の解明を目的とした調査研究活動の一環として、当時の公武で規範とされた諸芸に関する豫楽院近衛家熙（1667-1736）の言説の聞き書きとされる山科道安（1677-1746）著『槐記（かいき）』を研究対象とした「槐記研究会」の開催を始めとして、以下の活動を実施することができた。

### (1) 「槐記研究会」の開催

第 3 回 平成 25 年 9 月 7 日（土）14：00～17：00

於・陽明文庫虎山荘

陽明文庫所蔵山科道安自筆『槐記』残闕本 4 巻（正篇 3-5 巻と 6 巻の一部、続篇 3 巻）、孔林槐杯ほか貴重資料の閲覧と意見交換

次回の開催について

第 4 回 平成 26 年 2 月 15 日（土）14：00～17：00（予定。悪天候により中止）

於・国文学研究資料館森田直美研究室

森田直美氏（国文学研究資料館研究員）による研究発表

田中による輪読資料の提供

次回の開催について

### (2) 公的資金による研究計画遂行の為の資料収集調査活動の実施

公益財団法人武田科学振興財団による研究助成事業「杏雨書屋研究奨励」の贈呈に与った。研究課題は「杏雨書屋『薫物之方』に見られる近世初期における薫物文化の伝承と実相、変遷についての文献学的研究」、研究期間は平成 25、26 年度を予定している。平成 25 年度は、配分機関であり研究対象資料の所蔵先でもある杏雨書屋の移転に伴う閲覧室の閉鎖により、原本を利用することができなかった。この為、近世初期の上層社会における薫物文化の実相について記録した皇族、貴族、幕臣等の日記類の閲覧調査を実施し、データベースの構築と内容分析を進めている。

### (3) 資料収集調査とデータベースの構築

薫物書のうち、平安時代の類纂と伝わる『薫集類抄』を始めとした諸書に載録される薫物の種類を銘ごとに区別し、諸書における載録の有無を入力し

た文書ファイル、ならびにこれらの伝書のうち『薫集類抄』校本（拙著『薫集類抄の研究：附・薫物資料集成』に収録。平成 24 年 12 月発行）と公益財団法人徳川黎明会徳川林政史研究所が所蔵する「衆香類集」（請求記号：36-5）、「薫物之方」（同：36-7）に記載された薫物の銘と処方の内容を入力した文書ファイルを作成し、データベースとして活用した。これにより、書中と他書における同類文の探索が容易になったほか、記述内容の分類、分析をより高い精度で実施できるようになった。今後の研究では、管見で知り得た他書の記述についても順次データベース化して公開することにより、古代から近世にかけての薫物文化の実相と史的変遷について文献学的に跡付ける一助としたい考えである。

#### (4) 研究成果の論文化

以上の 1.から 3.の活動による成果の一部に基づく学術研究論文「徳川林政史研究所所蔵『薫物之方』翻刻」を執筆した。電子ジャーナル「薫物書の研究」創刊号（2-(5)および 3-(1)参照）への掲載を予定している。

#### (5) 「薫物書研究会」の発足ならびに会誌「薫物書の研究」の創刊

文献学的手法による基礎研究の進展を期して、薫物書の資料研究を専門とする研究会「薫物書（たきもののしょ）研究会」を設立し、そこでの成果を公開するための媒体として、電子ジャーナル「薫物書の研究」を刊行した。創刊号は独立行政法人科学技術振興機構（JST）が運営する電子ジャーナル共同利用センター「J-STAGE」において近日中に公開する予定である。

### 3. 研究成果一覧

#### (1) 論文

「徳川林政史研究所所蔵『薫物之方』翻刻」 単著 電子ジャーナル「薫物書の研究」  
創刊号 ONLINE ISSN: 2188-5451 薫物書研究会編 平成 26 年 4 月 14 日発行  
pp.1-82 URL 取得申請中

#### (2) 受賞

第 9 回全国大学国語国文学会学会賞

受賞期日等：平成 26 年 5 月 25 日（日） 第 109 回大会（平成 26 年度夏季大会）

審査対象：拙著『薫集類抄の研究；附・薫物資料研究』 三弥井書店 平成 24 年 12 月発行

#### (3) その他（講演会）

「吉川家の薫物(たきもの)の書」 全 2 回 一般財団法人水西倶楽部アカデミー  
平成 26 年 2 月 22 日、3 月 8 日（各土曜日） 10：00～12：00 於・岩国市福祉会館

## Ⅷ. 2013 年度広島女学院大学学術研究助成

### 【交付一覧】

研究種目	研究代表者氏名	研究題目	助成期間	助成決算額
個人研究	篠原 収	グローバル人材育成に向けた授業開発・実践・評価	2013-2014	499,632
	細田 みぎわ	東日本大震災における被災地での復興住宅のあり方	2013-2014	500,000
	橋本 一夫	Bochner可積分関数の多次元上の開領域での本質的有界変動の特徴づけ	2013-2014	390,226
	宮本 陽子	1789年から1800年に書かれたサドの小説におけるフランス革命	2013-2014	499,990
	三桝 正典	レッジョ・エミリア教育の美的活動における学びの「可視化」	2013-2014	500,000
	米倉 綽	後期中英語から初期近代英語における名詞派生接尾辞及び派生名詞の記述的研究	2013	498,124
	真木 利江	ラウシャム庭園とクレアモント庭園の景観構成	2013-2014	500,000
	小林 文香	住宅維持管理情報を活用した住環境づくりに関する研究	2012-2013	500,000
	田頭 紀和	ノハナショウブ地域個体群の遺伝的関連性に関する分子遺伝学的検証	2012-2013	499,671
	中田 美喜子	高校教科「情報」と大学情報教育の連携の必要性について—広島地区における調査から—	2012-2013	500,000
	山内 理恵	ロレンスの作品に見られるシャーロット・ブロンテ像	2012-2013	500,000
			計	5,387,643

## Ⅸ. 2013 年度科学研究費補助金

### 【交付一覧】

本紙上では研究代表者への交付についてのみ報告し、研究分担者として学内外から受けた配分額については記載しない。

研究種目 審査区分	研究代表者氏名	研究題目	研究期間	直接経費 間接経費
基盤研究(B) 海外	木本 浩一	森林「周辺域」における地域ガバナンスの 構造的可能性に関する地理学的研究	2013-2016	4,200,000 1,260,000
	基盤研究(C) 一般	山下 京子	青年期女子の注意欠陥多動性障害（ADHD） への臨床心理学的アプローチ	2010-2014
山本 武史		英語の音節構造に関する総合的研究	2013-2015	900,000 270,000
中村 勝美		19世紀ロンドン大学の学士課程教育と学位 試験に関する研究—大学間連携による質保	2013-2015	1,000,000 300,000
若手研究(B)	大場美和子	被爆者の英語による証言の理解と伝達の追 跡調査 —情報の解釈の変化の分析—	2011-2013	200,000 60,000
	田中 沙織	幼児の身体活動に関するカリキュラム作成 への試み —保育現場の実践を意図して—	2012-2015 ※1	0（産休中）
	福田 道宏	十八、十九世紀、宮廷御用絵師の通時的画 壇史としての研究	2012-2014	1,200,000 360,000
	カビル モハマ ド・フマユン	南アジアにおける宗教教育の達成度に関す る公式・非公式教育システムをめぐる比較 研究	2011-2013 ※2	2,400,000 720,000
計				10,500,000 3,150,000
直接経費・間接経費 合計				13,650,000

※1 研究の中断と期間延長により、当初予定の2012-2014から変更。

※2 2013年度に広島大学より転入。

## X. 関係規程・内規

広島女学院大学総合研究所規程 2031～2032

広島女学院大学公開講座運営規程 2033

広島女学院大学学術研究助成規程 2501～2505

広島女学院大学学術研究助成規程細則 2507

広島女学院大学「論集」執筆・編集規程 2521

広島女学院大学学会特別助成規程細則 2531

広島女学院大学特別専任研究員規程 2541

広島女学院大学における科学研究費補助金に関する規定 2551～2553

広島女学院大学受託研究規程 2561～2562

広島女学院大学における科学研究費補助金の執行・管理に関する取扱要領

広島女学院大学における科学研究費補助金の間接経費の取扱要領

## 広島女学院大学総合研究所規程

1992.	10.	7	制 定
1993.	12.	17	改 正
1999.	1.	7	〃
1999.	3.	2	〃
2001.	5.	7	〃
2007.	4.	1	〃

### (名 称)

第1条 広島女学院大学学則第49条に基づいて、本学に研究所を置き、広島女学院大学総合研究所（以下「研究所」という。）と称する。

### (目 的)

第2条 研究所は、広く人文・社会・自然の諸領域にわたる専門の学術理論及び応用に関する総合的な研究を行い、学術・文化の創造と発展に貢献すると共に地域社会の進展に寄与することを目的とする。

### (事 業)

第3条 研究所は前条の目的を達成するために、次の事業を行う。

- (1) 理論的研究・実態調査研究及び実験研究
- (2) 調査・研究のために必要な資料の収集・整理
- (3) 研究発表及び研究報告書の編集・刊行
- (4) 研究会・講演会及び公開講座等の開催
- (5) 国内外の大学及び研究機関との交流
- (6) 調査・研究の受託
- (7) 広島女学院大学学術研究助成費の交付
- (8) その他研究所委員会で必要と認めた事業

### (研究部門)

第4条 研究所は、研究活動の推進をはかるため、人文・社会・自然科学の諸部門を設ける。

### (組 織)

第5条 研究所に所長、研究所員、研究員及び事務職員を置く。

- 2 研究所に専任研究員を置くことができる。

### (所 長)

第6条 所長は学長に直属し、学長が学部教授会の議を経て専任教員の中から任命する。

- 2 所長は研究所の業務を統括し、研究所を代表する。
- 3 所長の任期は2年とする。ただし再任を妨げない。

### (研究所員)

第7条 本学の専任教員は、すべて研究所員となる。

(研究員)

第8条 研究員は、専任研究員、兼任研究員、客員研究員とする。

2 専任研究員は、別に定める規程により研究所委員会の選考に基づき、大学評議会の議を経て、学長が任命する。

ただし、所長が必要と認めた場合、その推薦による特別専任研究員を置くことができる。特別専任研究員については別に定める。

3 専任研究員の身分は、前項ただし書きによるものをのぞき、教授、准教授、専任講師、助教とする。

4 兼任研究員は、各学部専任教員のうち、研究所委員会の推薦と所属長の承認を経て学長が委嘱する。

5 客員研究員は、研究所委員会の推薦に基づき、学長が委嘱する。

(事務職員)

第9条 事務職員は、第3条各号に関する事務を処理する。ただし、第7号の事務については別に定める規程、取扱内規によるものとする。

(研究所委員会)

第10条 研究所に研究所委員会を置く。

2 研究所委員会は、研究の計画、実施及び予算、決算、研究所の運営に関する重要事項について審議する。

3 研究所委員会は所長、専任研究員、各学部教授会から推薦された教員5名によって構成される。

4 研究所委員会は所長が招集し、その議長となる。

5 研究所委員会の委員の任期は、所長を除き1年とする。ただし、再任を妨げない。

附 則

1 本規程は2007年4月1日から施行する。

2 本規程の改正は、委員会の議を経て大学評議会がこれを行い、学部教授会に報告する。

## 広島女学院大学公開講座運営規程

1972.	12.	4	制 定
1983.	9.	7	改 正
1989.	12.	20	〃
1992.	7.	31	〃
1999.	1.	7	〃
1999.	3.	2	〃
2000.	4.	1	〃
2013.	1.	15	〃

第1条 この講座は、市民の知的探求心にこたえるために広く大学の学術研究の成果を公開し、地域社会に奉仕することを目的とする。

第2条 この講座は、一般市民を対象に広く公開する。

第3条 この講座は、毎年秋の一定期間にシリーズとして適当な時間に開講する。

第4条 この講座は、総合研究所長及び各学科主任及び各学科副主任からなる公開講座運営委員会が企画立案にあたる。

第5条 この講座を受講しようとする者は、所定の申込書によって研究所事務課に申し込む。

第6条 委員会の事務は研究所事務課が担当する。

第7条 委員会は必要に応じてその他の教職員の出席を求めることができる。

第8条 本規程の改正は委員会の議を経て大学評議会がこれを行い、学部教授会に報告する。

### 附 則

本規程は2000年4月1日から施行する。

### 附 則

本規程は、第4条及び第8条を改正し2012年4月1日から施行する。

## 広島女学院大学学術研究助成規程

1994.	1.	31	制 定
1994.	11.	7	改 正
1995.	10.	2	〃
1997.	3.	11	〃
1999.	3.	2	〃
2000.	3.	7	〃
2001.	3.	27	〃
2002.	1.	8	〃
2002.	10.	8	〃
2004.	10.	5	〃
2007.	2.	6	〃
2008.	3.	4	〃
2008.	7.	1	〃
2010.	12.	7	〃
2012.	6.	12	〃

### 第 1 章      総                      則

(制度の趣旨)

第 1 条 広島女学院大学における学術研究を奨励し、研究の促進に寄与するため「広島女学院大学学術研究助成」(以下「研究助成」という。)を設ける。研究助成の取扱については、本規程の定めるところによる。

(研究助成の種類)

第 2 条 研究助成には、(1) 個人研究 (2) 共同研究 (3) 学術図書出版助成の 3 種目を置き、その他必要に応じて学術研究特別助成と学会特別助成を行い、特別助成については細則を別に定める。

(助成目的と助成対象)

第 3 条 各種目の助成目的と対象は以下のとおりとする。

- (1) 個人研究は、個人の研究の奨励を目的とし、教員が個人で進める研究計画を助成する。
- (2) 共同研究は、共同で行う研究の奨励を目的とし、教員が共同で進める研究計画を助成する。
- (3) 学術図書出版助成は、研究成果刊行の奨励を目的とし、個人又は学内者の共著の刊行を助成する。なお、本学専任教員の申請に限り、本学院(高等学校・中学校・幼稚園)専任教員との共著も含むものとする。

(助成額と助成期間)

第 4 条 各種目の 1 件ごとの助成額及び助成期間は以下のとおりとする。

- (1) 個人研究においては1年から2年で、単年度50万円以下。総額100万円以下。
- (2) 共同研究においては1年から2年で、単年度100万円以下。総額200万円以下。
- (3) 学術図書出版助成においては、助成年度の2月末日までに刊行するもので100万円以下。

## 第2章 申 請

### (研究助成の申請)

第5条 各年度の研究助成の申請は、助成の前年度3月末日までとする。ただし、学術図書出版助成において助成年度に募集することがある。

第6条 研究助成の申請があった時は、第7条に定める申請資格及び第8条に定める申請要件を満たしている場合、これを受理する。

### (申請資格)

第7条 各種目の申請資格は以下のとおりとする。

- (1) 個人研究は本学専任教員(外国人契約教員を含む)個人
- (2) 共同研究は本学専任教員(外国人契約教員を含む)のグループ
- (3) 学術図書出版助成は本学専任教員(外国人契約教員を含む)

2 研究代表者は、同一種目について複数の申請をすることはできないものとする。

3 継続研究の継続期間中、研究代表者は学術図書出版助成と特別助成以外の申請はできない。

### (申請の要件)

第8条 学術図書出版助成については、助成年度の2月末日までに刊行を完了する見込みが確実でないものは申請できないものとする。

## 第3章 審 査 と 決 定

### (審査委員会の設置)

第9条 各年度の研究助成の審査及び配分額を諮問するために総合研究所委員会のもとに審査委員会を置く。

### (審査委員会の構成)

第10条 審査委員会は次の委員をもって構成する。

- (1) 総合研究所長
- (2) 各学科主任
- (3) 各学科副主任
- (4) その他審査委員会が委嘱する専門委員

2 審査委員会には委員長を置き、総合研究所長がこれにあたる。

### (審査対象からの除外)

第11条 申請があったもののうち、研究代表者として他の公的助成金等の受給が確定したもののについては、これを審査対象から除外する。

(適格要件及び審査基準)

第12条 審査委員会は、提出された申請書類に基づいて審査する。

2 審査は以下の適格要件について判断する。

(1) 申請に関する要件及び重複に関する事項

(2) 過年度における報告義務の履行状況

3 審査は以下の項目について行う。

(1) 研究目的、学問上の必要性の明確さ

(2) 研究計画の具体性及び申請経費との整合性

(3) 研究計画全般の総合的判断

(4) 近年の業績状況（萌芽研究を除く。）

(決 定)

第13条 基準に達したものが多数の場合は、審査委員会において、種目により前条3項目及び本学助成の受給状況などを総合的に判断して順位を決定する。

2 研究助成の各種目の採択件数及び採否は審査委員会の議を経て大学評議会で決定する。

(採択の通知)

第14条 研究助成の決定が行われた場合、速やかに採否を申請者に通知するものとする。

## 第4章 助 成 金 の 執 行

(研究計画の変更及び辞退)

第15条 研究助成の採択後に研究計画の変更が生じた場合、軽微な変更を除いて速やかに研究計画変更承認申請書を研究所に提出しなければならない。

2 採択後に本助成を辞退する場合は、速やかに届けるものとする。

(助成の停止)

第16条 研究計画に変更があるにもかかわらず、研究計画変更承認申請書の提出がなかった場合は、研究助成の執行を停止し、返還を求めることもある。

(研究費の執行)

第17条 研究助成の執行は研究計画に基づき、交付決定通知以降の支出とし、当該年度2月末までに完了しなければならない。個人研究、共同研究においては、併せて決算報告書を提出するものとする。ただし個人研究、共同研究における継続研究の場合は事前に許可を得て4月1日以降支出することができる。

2 2月末以降の執行は、これを認めないものとする。

(助成金の支出範囲)

第18条 各種目の支出範囲は別表のとおりとする。

## 第5章 受給者の義務

(研究計画に基づく執行)

第19条 受給者は、審査時に提出した研究計画に基づき、誠実に研究を遂行しなければならない。

(研究成果の発表・提出)

第20条 個人研究、共同研究については、各年度末までに所定の概要報告書を提出しなければならない。また、助成最終年度の次年度末までに、論集又は学術雑誌等に発表し、その研究成果を報告しなければならない。学術雑誌以外での成果の発表については別に定める。

2 学術図書出版については、助成年度内に刊行成果5冊を提出しなければならない。出版する図書のまえがき若しくはあとがきに「広島女学院大学学術研究助成制度」による出版物である旨を明記するものとする。

(業務違反)

第21条 本章に定める義務が遵守されなかった場合、助成を受けた者は当該年度を除き3年間、本学術研究助成に申請する資格を有しないものとする。

## 第6章 その他

(研究助成の事務)

第22条 本規程に定める研究助成の事務は、総合研究所事務課が担当する。

附 則

- 1 本規程は、2009年4月1日から施行する。
- 2 本規程の改正は、委員会の議を経て大学評議会がこれを行い、学部教授会に報告する。
- 3 本規程についての細則は別に定める。

附 則

本規程は、第7条第2項及び第11条を改正、第7条第4項を削除し、2011年3月1日から施行する。

附 則

本規程は、第10条第1項第3号及び4号を改正し、2012年6月12日から施行する。

付記（移行措置）

2009 年 4 月 1 日施行の規程の改正に伴い、継続期間中の若手研究、萌芽研究、基盤研究においては、継続期間終了まで2008年3月4日改正の規程によるものとする。  
但し、第4章第18条については、改正後の規程を適用する。

別表 各種目の支出

種 目	支出範囲	支出できないもの
個人研究 共同研究	設備備品費（消耗図書を含む） 消耗品費（複写費を含む） 旅費*（グリーン料金を除く） 謝金 その他（通信費・印刷製本費 その他必要と認めるもの） 研究計画に必要な学会出席旅費・ 参加費	研究メンバーに対する謝金  その他研究に関連のない経費
学術図書出版 助 成	直接出版経費（組版代・製版代・ 印刷代・用紙代・製本代）	編集・校正・特製本等の諸費

\*継続して30日程度の国外旅費の場合は、当該年度の休暇期間中に行うものとする。  
ただし、短期間の場合はこの限りではない。

## 広島女学院大学学術研究助成規程細則

1995.	12.	11	制 定
1996.	12.	3	改 正
1999.	3.	2	〃
2002.	1.	8	〃
2008.	7.	1	〃

### (申 請)

第1条 助成を受ける研究年度の前年度末までに、単価又はセット価格が5万円以上のものは見積書を、旅費については明細を提出する。

2 当初の申請に変更のない場合に限り、継続研究の継続申請は不要とする。

### (審査と決定)

第2条 継続研究の助成額については、各年度毎に審査する。

### (助成金の執行)

第3条 継続研究の予算の執行は年度毎とする。

2 図書館資料については、「広島女学院図書館資料管理規程」によるが、固定資産として計上する資料の基準は、5万円以上とする。

### (受給者の義務)

第4条 成果の発表については、芸術系の研究の場合芸術活動の記録及び作品を成果とみなすことが出来る。

### (軽微な変更の範囲)

第5条 研究方法の変更、分担者の変更、役割分担の変更、単価及びセット価格が5万円未満の使用内訳の変更は軽微な変更とし、研究代表者の判断に委ねる。単価及びセット価格が5万円以上の設備備品費(資産図書を含む)支出の場合は事前に許可を得て支出するものとする。

## 附 則

1 本細則の改正は、委員会の議を経て大学評議会がこれを行い、学部教授会に報告する。

2 本細則は、2009年4月1日から施行する。

## 広島女学院大学学術研究特別助成規程細則

2001. 3. 27 制 定  
2002. 1. 8 改 正  
2002. 10. 8    //  
2013. 1. 15    //

### (目 的)

第1条 本学における学術研究を奨励するために、顕著な成果をおさめた研究を対象とする。

### (申 請)

第2条 学術研究特別助成の申請締切日は、次のとおりとする。第一次申請の締切は当該年度の6月15日まで、第二次申請の締切は当該年度の12月15日まで。

なお、申請の対象となる成果は申請締切日1年以内のものとする。

2 助成対象の成果が本学学術研究助成及び他機関助成を受けていないものであれば、重複申請をしてもよいものとする。

### (助成額と助成期間)

第3条 当該年度の4月から申請日までの期間において1件10万円程度とする。

### (申請資格)

第4条 学術研究特別助成の対象は本学専任教員で個人又はグループとし、当該年度の申請は2件を限度とする。

### (審査委員会の設置)

第5条 学術研究特別助成の審査及び配分額を諮問するために総合研究所委員会のもとに審査委員会を置く。

### (審査委員会の構成)

第6条 審査委員会は次の委員をもって構成する。

- (1) 総合研究所長
- (2) 各学科主任
- (3) 各学科副主任
- (4) その他審査委員会が委嘱する専門委員

2 審査委員会には委員長を置き、総合研究所長がこれにあたる。

### (審査と決定)

第7条 学術研究特別助成については、提出された申請書類と学外の全国的学術雑誌等に発表された論文及び全国レベルの雑誌で高い評価を受けた論文をもとに審査する。また、全国的な規模での賞金が出ない受賞の場合は、申請書類を受賞報告書をもとに審査する。

2 学術研究特別助成の採否は審査委員会の議を経て大学評議会で決定する。

### (採否の通知)

第8条 学術研究特別助成の決定が行われた場合、速やかに採否を申請者に通知す

るものとする。

(助成金の執行)

第9条 学術研究特別助成金の執行は、当該年度2月末日までに学術研究特別助成金として給与に含めて支払うものとする。

附 則

- 1 本細則は、2003年4月1日から施行する。
- 2 本細則の改正は、委員会の議を経て大学評議会がこれを行い、学部教授会に報告する。

附 則

本細則は、第6条を改正し2012年6月12日から施行する。

## 広島女学院大学「論集」執筆・編集規程

1975.	2.	施 行
1989.	12. 20	改 正
1992.	7. 31	〃
1993.	11. 17	〃
1997.	1. 7	〃
1998.	12. 16	〃
1999.	3. 2	〃
2005.	11. 9	〃
2007.	4. 1	〃
2011.	4. 12	〃

第1条 本論集には、専門学術に関する未刊行の論文を掲載する。

第2条 寄稿者は、本学の教授、准教授、専任講師、助教、助手とする。ただし、共同執筆者については、寄稿者が共同執筆者として推薦し、論集委員会が認めた者とする。

第3条 論集の編集及び発行の責任は、論集委員会がこれを負う。

第4条 論集の発行代表者は学長、編集代表者は総合研究所長とする。論集委員は総合研究所委員がその任にあたる。

第5条 論文の内容及び掲載の可否に関する判断は、寄稿者に委ね、論集委員会は原則として、これを行わない。ただし、編集の都合上、掲載時期、形式等について変更を求めることがある。

2 入稿後の大幅な変更及び取り下げについては、理由を明らかにして論集委員会に諮る。寄稿者に対して、当該年度を除き2年間の寄稿を停止するものとする。

第6条 論集の発行時期、論文の長さ及び体裁、論文の提出期限、校正等に関する編集方式については論集委員会に一任する。

第7条 委員会は必要に応じてその他の教職員の出席を求めることができる。

第8条 本論集に掲載された論文の著作権は著者に帰属するものとする。ただし、広島女学院大学は本誌に掲載された論文を電子化、または複製の形態などで公開する権利を有するものとする。

### 附 則

- 1 本規程の改正は、委員会の議を経て大学評議会がこれを行い、学部教授会に報告する。
- 2 本規程は2007年4月1日から施行する。

### 附 則

- 1 本規程は第4条及び第5条を改正し2011年4月1日から施行する。

## 広島女学院大学学会特別助成規程細則

2001. 3. 27 制 定

2008. 7. 1 改 正

2012. 6. 12 //

2013. 1. 15 //

### (目 的)

第1条 全国規模の学会で、本学院を会場として開催し、運営費の一部を助成することにより、本学の学術的広報活動に寄与できるものを対象とする。

### (申 請)

第2条 学会特別助成の申請は助成の前年度3月末日までとする。

### (助成額と助成期間)

第3条 当該年度開催される学会に対して1件20万円程度とする。

### (申請資格)

第4条 学会特別助成は本学専任教員が申請するものとする。

### (審査委員会の設置)

第5条 学会特別助成の審査及び配分額を諮問するために総合研究所委員会のもとに審査委員会を置く。

### (審査委員会の構成)

第6条 審査委員会は次の委員をもって構成する。

- (1) 総合研究所長
- (2) 各学科主任
- (3) 各学科副主任
- (4) その他審査委員会が委嘱する専門委員

2 審査委員会には委員長を置き、総合研究所長がこれにあたる。

### (審査と決定)

第7条 学会特別助成については、提出された申請書類に基づいて審査する。

### (助成金の執行)

第8条 学会特別助成の執行は、当該年度2月末日までに完了しなければならない。

### (受給者の義務)

第9条 助成年度末までに、学会終了報告書(会計報告を含む。)を提出しなければならない。

## 附 則

- 1 本細則は、2009年4月1日から施行する。
- 2 本細則の改正は、委員会の議を経て大学評議会がこれを行い、学部教授会に報告する。

附 則

本細則は、第 6 条を改正し 2012 年 6 月 12 日から施行する。

## 広島女学院大学特別専任研究員規程

2001. 6. 19 制 定

2004. 3. 2 改 正

### (目 的)

第1条 本学大学院博士後期課程の修了者で、優秀な能力を持った人物の研究を継続・促進するため、総合研究所に特別専任研究員(以下「研究員」という。)を置く。

### (資 格)

第2条 本学大学院博士後期課程の修了者で、引き続き研究活動を継続して行うことができ、研究科委員会より推薦された者とする。

### (定 員)

第3条 原則として定員は1名とする。

### (任 期)

第4条 研究員の任期は1期1年通算2年とする。ただし、総合研究所委員会が認めた場合はさらに1年に限り延長することができる。

### (申 請)

第5条 研究員となる前年度の3月末までに研究計画書を指導教授のもとで作成し、総合研究所に提出する。

### (審査と決定)

第6条 総合研究所委員会の審査を経て大学評議会で決定し、学長が任命する。給与については別に定める。

### (研究活動)

第7条 研究員は指導教授のもとで研究活動を行う。ただし、研究活動が不可能になった場合は、その旨を速やかに総合研究所長に申し出なければならない。

### (義 務)

第8条 研究員は研究の概要報告を、研究初年度末までに総合研究所に提出しなければならない。また、研究活動終了の年度末までに研究成果を学術雑誌等に発表し、総合研究所に報告しなければならない。

2 研究員は総合研究所長の命による義務を担うものとする。業務内容については別に定める。

3 本条に定める義務が遵守されなかった場合、研究員の資格を失うものとする。

### 附 則

1 本規程は、2004年4月1日から施行する。

2 本規程の改正は、総合研究所委員会の議を経て大学評議会がこれを行い、学部教授会及び研究科委員会に報告する。

## 広島女学院大学における科学研究費補助金に関する規程

2008.1. 8 制 定

2013.1.15 改 正

### (目的)

第1条 この規程は、広島女学院大学（以下「本学」という。）における文部科学省（以下「文科省」という。）及び日本学術振興会が交付する科学研究費補助金（以下「科研費」という。）の運営・管理を事務組織規程第24条に基づき、総合研究所事務課（以下「総合研」という。）で行うこと及びその内容について定める。

### (根拠)

第2条 科研費の運営・管理については、「補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律（法律第179号）」「補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律施行令（政令第255号）」「科学研究費補助金取扱規程（文部省告示第110号）」「独立行政法人日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究等）取扱要領（規程第17号）」「文科省研究者使用ルール（補助条件）」「学振研究者使用ルール（補助条件）」及び本学の諸規則等の他、別に定めのない限りこの規程による。

### (責任体系)

第3条 科研費に関する運営・管理を適正に行うための責任体系を「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン（実施基準）（平成19年2月15日文部科学大臣決定）」に基づき、次のとおりとする。

- (1) 科研費について最終責任を負う最高管理責任者は、経理規程第1章第8条第4項に基づき理事長とする。
- (2) 科研費について、最高管理責任者を補佐し実質的な責任と権限を持つ統括管理責任者は、経理規程第1章第8条第2項に基づき学長とする。
- (3) 科研費について、実質的な責任者としての部局責任者は、事務組織規程第3章第10条第6項に基づき事務局長、および事務組織規程第3章第10条第10項に基づき総合研究所長とする。

### (総合研で行う業務)

第4条 総合研は、科研費について次の業務を行う。

- (1) 科研費研究者名簿（以下「研究者名簿」という。）への登録等に関すること
- (2) 応募・交付申請に関すること

(3) 交付される科研費（直接経費・間接経費・分担金）の受領、執行・管理に関する  
こと

(4) 科研費による出張に関すること

(5) 実績報告に関すること

(6) 研究成果報告等に関すること

(7) 内部監査に関すること

(8) 他の研究機関の科研費に関すること

(9) 学内外からの問合せへの対応

(10) その他、文科省及び日本学術振興会の定めること

(研究者名簿への登録等)

第5条 文部科学省及び日本学術振興会の定める科研費への応募資格要件をすべて満たし、研究者名簿に登録することができる者は、次の各号の一に該当する場合とする。

(1) 本学の専任教員(外国人契約教員を含む)

(2) 特別専任研究員

2 研究者名簿への登録・記載事項の変更等は、名簿への登録等を希望する者が所定の期間内に総合研に申し出るものとする。

3 研究者名簿に登録した者が第1項に該当しなくなった場合は、文科省の定める転出・退職等の所定の手続きを行う。

(科研費による研究活動)

第6条 研究代表者は、科研費の交付申請を行う場合、不正行為等を行わない旨の誓約書（様式A-2-3）を提出しなければならない。

2 研究代表者及び研究分担者は、交付された科研費による研究活動について、文科省並びに日本学術振興会の補助条件及び本学の諸規則等を遵守しなければならない。

3 交付された科研費による研究代表者及び研究分担者等の研究活動は、本学の業務として行うものとする。

(科研費の執行・管理)

第7条 交付される科研費は、経理規程第2章第11条第2項に該当するものとする。

2 学長宛に送金された科研費は、研究代表者毎の預金口座に振り替えて管理する。なお、研究代表者毎の預金口座に振替えるまでの間に利息が生じる場合、及び、振替えた後に利息が生じる場合は、研究代表者に帰属し、その補助事業遂行の為に使用するものとする。

- 3 間接経費が交付された場合は、研究代表者毎の預金口座に振替えた後すみやかに所定の方法により譲渡の手続きを行い、本学は譲渡を受け入れる。譲渡された間接経費は、別に定める内規に基づき執行する。当該研究代表者が他の研究機関に所属することとなる場合には、直接経費の残額の 30%に相当する額の間接経費を当該研究者に返還する。
- 4 科研費(直接経費・分担金)の執行の決裁者は、第3条第3号に基づき総合研究所長とする。
- 5 科研費(直接経費・分担金)により購入した設備、備品等については、研究代表者からの寄付を受け入れるとともに、当該研究者が他の研究機関に所属することとなる場合は、その求めに応じ当該研究者に返還する。
- 6 科研費(直接経費・分担金)の執行・管理の詳細については別に定める。ただし、他の研究機関に所属する研究分担者に分担金を配分した場合の分担金の執行・管理については、当該研究分担者が所属する研究機関の定め等に従う。

(内部監査)

第8条 文科省及び日本学術振興会の定める内部監査は、内部監査室が行う。

(他の研究機関の科研費)

第9条 他の研究機関の科研費について次の業務を行う。

- (1) 他の研究機関の研究分担者になる手続き
- (2) 他の研究機関の科研費による出張に関する手続き

(科研費に関する疑義)

第10条 部局責任者は、科研費の運営・管理等について疑義等が生じた場合、すみやかに統括管理責任者へ報告しその指示に従う。

附 則

- 1 この規程の改廃は、大学評議会の議を経て学長がこれを行う。
- 2 本規程は、2008年4月1日から施行する。

附 則

本規程は、第1条、第3条、第5条、第7条及び第8条を改正し2012年4月1日から施行する。

## 広島女学院大学受託研究規程

2009. 10. 13 制定

### (目的)

第1条 この規程は、広島女学院大学（以下「本学」という。）における受託研究の取扱いについて定め、適正な事務処理を図ることを目的とする。

### (定義)

第2条 この規程において「受託研究」とは、本学の専任教員が民間企業、官公庁等外部機関（以下「委託者」という。）からの委託を受けて公務として行う研究で、これに要する経費を委託者が負担し、研究成果を委託者に報告するものをいう。

### (受入基準)

第3条 受託研究の受入は、本学の教育研究上有意義であり、かつ、本来の教育研究に支障を生じるおそれがないと学長が認める場合に限り行うものとする。

### (申込み)

第4条 本学に受託研究を委託しようとする者は、本学の専任教員と事前に協議の上、所定の受託研究申込書を、総合研究所を経て学長へ提出するものとする。

### (受入の決定)

第5条 受託研究の申し込みがあった場合において、その内容が適切であると学長が認めたものについて、受け入れを決定するものとする。

2 前項において、申し込みの内容は、総合研究所委員会に設置される委員会（受託研究審査委員会）での審議と承認を経て学長の判断を仰ぐものとする。

### (契約の締結)

第6条 受託研究の受け入れを決定したときは、ただちに学長と委託者との間に受託研究契約を締結しなければならない。

### (研究費の負担)

第7条 委託者は、当該研究の遂行に必要な経費を負担するものとする。

2 委託者が負担する経費の内、30%に相当する額を、本学の雑収入として研究に必要な間接経費の一部に使用する。

3 前項にかかわらず、次に該当する場合の間接経費の取扱いは、受託研究契約の定めるところによる。

(1) 委託者が国の機関、独立行政法人、地方公共団体である場合

- (2) 当該研究に対する社会的要請が強く、本学の教育研究上極めて  
有意義であるもの

(取得物品の帰属)

第8条 受託研究に要する経費により取得した設備備品の所有権は、原則  
として本学に帰属し、委託者に返還しない。

- 2 物品の調達、人件費の支払、旅費等の計算は、受託研究契約に定めが  
ある場合を除き本学の規程に準拠して行うものとする。

(所管部署)

第9条 受託研究の取扱いに関する所管部署は、総合研究所事務課とする。

#### 附則

- 1 本規程は、2010年4月1日以降に締結される受託研究から適用する。
- 2 本規程の改正は、総合研究所委員会の議を経て大学評議会がこれを行  
い、教授会に報告する。

# 広島女学院大学における科学研究費補助金の執行・管理に関する取扱要領

2008 年 1 月 8 日 制定

2014 年 5 月 13 日 改正

## (目的)

第 1 条 この取扱要領は、広島女学院大学における科学研究費補助金に関する規程第 7 条第 6 項に基づき文部科学省及び日本学術振興会の交付する科学研究費補助金の直接経費及び他の研究機関からの分担金（以下「科研費」という）の執行及び管理の詳細について定める。

## (科研費の執行)

- 第 2 条 科研費（他の研究機関からの分担金は除く）は、この取扱要領に定めるものの他、学校法人広島女学院の諸規程等に準拠し執行・管理を行う。分担金の場合は、相手機関の定めによる。
- 2 科研費は、補助事業の年度毎に執行し、補助事業年度の 3 月 20 日までにすべての支払いを完了するものとする。補助事業年度の 3 月 20 日以前に出国する場合は、出国の前日までにすべての支払を完了していなければならない。
- 3 研究分担者が科研費を使用する場合の各書類等は、研究代表者を經由して総合研に提出するものとする。

## (使用費目及び手続き等)

第 3 条 科研費を使用する際の費目及びその手続き等は、次のとおりとする。出金する場合は、「科学研究費補助金支出表（科研様式 1）」に請求書等必要書類を添付して総合研に提出するものとする。

- (1) 物品費 物品（設備備品、図書、資料、消耗品等）を購入するための経費。

物品費を使用する場合は次のとおりとする。

物品の請求書等は、庶務課、総合研いずれかの納品確認印と研究代表者の検収印が押印されていないものは支出しないものとする。（消耗品はこの限りではない。）

消耗品は、必要に応じて総合研究所事務課で納品確認する。

設備備品（図書を除く）を購入する場合は、「科学研究費補助金物品購入申請書(科研様式 2)」を総合研に提出するものとする。設備備品（図書を除く）は原則として庶務課から発注し、庶務課で納品確認後、当該研究者が使用可能となる。

図書は、金額に拘わらず総合研事務課で納品確認し、図書に蔵書印を押印する。

設備備品（図書を除く）の出金は、「科学研究費補助金物品明細書（科研様式 3）」を支出表等に添えて総合研に提出する。

また、3 万円以上または財務課長が必要と認めた設備備品（図書を除く）は、出金に係る書類に寄附書を添えて提出し、本学へ寄附の手続を行う。

設備備品及び図書となるものの基準は次のとおりとする。

(ア) 設備備品 固定資産及び物品管理規程第2条第1項イ及び第3項アに該当するもの

(イ) 図 書 広島女学院図書館資料管理規程第2条第1項に該当するもの

(2) 旅 費 研究代表者、研究分担者、その他研究へ協力する者の国内又は海外への出張のための経費。

旅費を使用する場合は次のとおりとする。

(ア) 研究代表者又は本学に所属する研究分担者等が国内に出張する場合、旅費規程により「科学研究費補助金旅行願（科研様式4）」「科学研究費補助金支出表（科研様式1）」「科学研究費補助金旅費請求書（科研様式5）」を総合研に提出する。その際、科研費の用務であることがわかる資料を添付する。開催案内等添付資料のない旅行申請には、「科学研究費補助金資料収集等計画書（科研様式7）」を添付する。また、旅行終了後は速やかに「科学研究費補助金旅行報告（記録）書（科研様式8）」を総合研に提出するものとする。

(イ) 研究代表者又は本学に所属する研究分担者等が海外に出張する場合、旅費規程により「科学研究費補助金旅行願（科研様式4）」「科学研究費補助金支出表（科研様式1）」「科学研究費補助金旅費請求書（科研様式6）」を総合研に提出する。その際、科研費の用務であることがわかる資料を添付する。開催案内等添付資料のない旅行申請には、「科学研究費補助金資料収集等計画書（科研様式7）」を添付する。

旅行者は帰国後、航空券の半券またはその写し、及びパスポートの該当頁の写しを総合研に提出するものとする。また、旅行終了後は速やかに「科学研究費補助金旅行報告書（記録）書（科研様式8）」を総合研に提出するものとする。

(ウ) 本学以外の研究機関に所属する連携研究者等が出張する場合は、「科学研究費補助金による出張依頼書（科研様式10）」により相手機関の所属長より「科学研究費補助金による出張承諾書（科研様式11）」を徴し、「科学研究費補助金による連携研究者等出張申請書」（科研様式9）「科学研究費補助金支出表（科研様式1）」「科学研究費補助金旅費請求書（科研様式5または6）」と併せて総合研に提出すること。その際、科研費の用務であることがわかる資料を添付する。開催案内等添付資料のない出張申請には、「科学研究費補助金資料収集等計画書（科研様式7）」を添付する。また、連携研究者等は出張終了後、研究代表者を通じて速やかに「科学研究費補助金出張報告（記録）書（科研様式12）」を総合研に提出するものとする。

(エ) 研究機関に所属していない研究協力者等が出張する場合は、「科学研究費

補助金による連携研究者等出張申請書（科研様式9）」「科学研究費補助金支出表（科研様式1）」「科学研究費補助金旅費請求書（科研様式5または6）」を総合研に提出すること。その際、科研費の用務であることがわかる資料を添付する。開催案内等添付資料のない出張申請には、「科学研究費補助金資料収集等計画書（科研様式7）」を添付する。また、研究協力者等は出張終了後、研究代表者を通じて速やかに「科学研究費補助金出張報告（記録）書（科研様式12）」を総合研に提出するものとする。

（3）謝金等 アルバイトへの賃金、研究協力者等への謝礼金等の経費。

謝金等を使用する場合は次のとおりとする。

- （ア）① アルバイトを雇用する場合は、「科学研究費補助金アルバイト等雇用申請書（科研様式13）」を総合研に提出する。アルバイトの「科学研究費補助金出勤表（科研様式14）」は、研究代表者が保管する。
- ② 研究代表者は、アルバイト最終勤務日以後、「科学研究費補助金出勤表（科研様式14）」を確認し、必要事項を記入・捺印のうえ、原則として月ごとに支出表に添付して総合研に提出するものとする。
- ③ アルバイト料は、アルバイト名義の銀行口座に払込、又はアルバイトが会計窓口で受け取る。
- ④ 必要に応じて、総合研究所所長または内部監査実施者が勤務の実態についてアルバイトに聞き取りを行うものとする。
- （イ） 研究協力者等への謝金等は、専門的知識の提供に対しては特に理由がある場合を除き1件3万円以内とする。また、請求に際しては、支出表等に業務の内容が分かる資料を添付する。
- （ウ） 研究成果の原稿等の翻訳又は校閲を個人（本業でない者）に依頼する場合は、原則として下記の金額を上限とする。また、請求に際しては、支出表等に業務の内容が分かる資料を添付する。
  - ① 翻訳 日本語 400 字当たり 4,800 円
  - ② 校閲 外国語 300 語当たり 2,600 円

（4）その他 上記に該当しない経費。

その他を使用する場合、不明な点があれば、事前に総合研に照会するものとする。

第4条 科研費で購入した物品に修理費用等が発生する場合は次のとおりとする。

- （1）設備備品として本学に寄付した物品は大学の経費で修理する。
- （2）消耗品等で本学に寄付していない物品の修理費は、その科研費が継続交付されている期間は、科研費（その他）で支出することができる。
- （3）前各号に該当しない場合は自己負担となる。

第5条 この取扱要領に定められていない事項については、関係機関、本学関係部局及び関係者等と調整のうえ、取扱うこととする。

第6条 この取扱要領の改廃は、学長の決裁で行うものとする。

付則1 本取扱要領は、2008年4月1日から施行する。

付則2 本取扱要領は、第3条を改正し、2014年4月1日から施行する。

## 広島女学院大学における科学研究費補助金の間接経費の取扱要領

2008 年 1 月 8 日 制定

2010 年 7 月 13 日 改正

- 1 広島女学院大学における科学研究費補助金に関する規定第 7 条 5 項に基づき、広島女学院大学(以下「本学」という。))における科学研究費補助金の間接経費の取扱について定める。
- 2 間接経費が交付される場合、研究代表者の譲渡の申し出により、本学はその譲渡を受け入れる。
- 3 研究代表者は、間接経費が交付された場合「科学研究費補助金間接経費譲渡申出書(科研様式 1 6)」によりその譲渡を、学校法人広島女学院理事長に申し出る。
- 4 譲渡の申し出のあった間接経費については、本学の雑収入として受け入れる。
- 5 譲渡された間接経費の使用は、文部科学省研究振興局ならびに独立行政法人日本学術振興会が交付年度ごとに定めて通達する「科学研究費使用について各研究機関が行うべき事務等」に則って、次のとおり行う。
  - ① 「間接経費の主な使途の例示」に記載されている内容に該当する本学の諸経費の一部について使用する。
  - ② 間接経費を光熱水費の一部に使用する場合の具体的な計算方法は、当該年度の決算後(年間光熱水費確定後)に下記の計算式により算出する。
$$\text{教員の研究室総面積} \div \text{大学全体の建物面積} \times 100 \text{ (小数点以下切り捨て)}$$
$$\text{大学全体の光熱水費} \times \text{上記で算出した割合 (円未満切り捨て)}$$
  - ③ 間接経費で充当した金額については、他の補助金等の算定根拠としない。
- 6 研究代表者が他の研究機関に所属することとなった場合又は他の研究機関の研究分担者に研究代表者を交替することとなったとき、直接経費の残額がある場合はその残額の 30% に相当する額の間接経費を当該研究代表者に返還する。
- 7 使用した間接経費については、「間接経費執行実績報告書(所定の様式)」により文部科学省へ報告する。
- 8 その他、間接経費について、この取扱で定めていないことについては関係機関及び関係部局と調整のうえ行う。

### 付則

- 1 この取扱要領は、2010 年度科学研究費補助金の交付分から適用する。

## 編集委員

佐藤 茂樹	総合研究所所長（代表）
柚木 靖史	総合研究所委員
植西 浩一	総合研究所委員
金田 仁秀	総合研究所委員
小野 育雄	総合研究所委員
石長孝二郎	総合研究所委員
三桝 正典	総合研究所委員

広島女学院大学総合研究所年報 Vol. 18

2014 年 7 月 31 日発行 ©

〔非 売 品〕

編集代表 佐藤 茂樹

発行代表 湊 晶子

発 行 所 広島女学院大学総合研究所

〒732-0063 広島市東区牛田東四丁目 13-1

TEL (代)082-228-0386